

フジフィルム スクエア

2021年度

活動報告書



2022

FUJIFILM SQUARE

フジフィルム スクエアのこれまでの活動

富士フィルムは創業以来「写真文化」を守り育てるため、写真の素晴らしさ、楽しさ、感動、そして写真を残す大切さを伝える活動を一貫して行ってきました。開館以来、延べ1,600回におよぶ写真展を開催し、750万人以上の幅広い年代の方々にご来館いただいています*1。フジフィルム スクエアに関連する活動の歴史をご紹介します。

※1 2022年3月時点



1957

富士フォトサロン開館

プロ、アマチュア問わず優れた作品を発表する場として、フジフィルム スクエアの前身となる富士フォトサロンを銀座に開館しました。

2007

フジフィルム スクエア開館

東京ミッドタウン(六本木)への本社移転と同時に、複合型ショールーム「フジフィルム スクエア」を開館しました。「富士フォトサロン」から改名した「富士フィルムフォトサロン」に加え、写真の歴史とカメラの進化を学べる「写真歴史博物館」等を併設。



2014

フジフィルム・フォトコレクション収蔵

創立80周年を機に、幕末・明治から現代に至る日本の写真史を飾る101人の写真家選りすぐりの1枚を、「フジフィルム・フォトコレクション」として収蔵。これらはフジフィルム スクエアをはじめ全国の美術館でも展示され、その芸術的価値をお伝えするとともに、日本写真史の体系的な理解に役立てていただいています。

2017

開館10周年記念写真展の開催

フジフィルム スクエアの開館10周年を記念し、写真の「歴史」・「今」・「明日」という3つのテーマで、「写真の過去・現在・未来」を発信する12の特別企画展を1年間にわたり開催しました。

10th
ANNIVERSARY



2018

メセナアワード2018

優秀賞「瞬間の芸術賞」受賞

フジフィルム スクエアの活動が、企業メセナ協会*2が主催するメセナアワード2018 優秀賞「瞬間の芸術賞」を受賞。長年にわたり、写真作品を発表、鑑賞する場を提供し、人と人の心がつながる感動体験を広め、写真文化の普及と発展に貢献していること、時代を超える価値を持つ貴重な作品の展示機会を作り、記録性や芸術性という写真の本質を、時代に合った内容で発信し、写真を文化財として継承・育成する可能性を追求し続けていることを評価いただきました。

※2 企業による芸術文化支援(メセナ)活動の活性化を目的に1990年に設立された、日本で唯一のメセナ専門の中間支援機関

「こころ彩るところ」フジフィルム スクエアは、
時代の変化に適した形で、写真文化を未来へと絶えず、守り育み続けます。

施設コンセプト



「写真の持つ力に感動しました」「思わず私も撮りたくなりました」
訪れたお客様から、そんなたくさんのお声をいただいています。

フジフィルム スクエアはこれからも、
価値ある作品との出会いを通じて、
人と人が心豊かにつながる場でありたいと考えています。

例えば、見応えあるオリジナルプリントを、思う存分鑑賞する。
出展者の、作品作りの背景や意図を理解する。
写真家の心に共感し、一緒に見ている人と気持ちを分かち合う。
歴代のカメラや写真の歴史を知り、好奇心の羽根を広げる。

この場所で生まれる出会いや感動で、お客様の心が鮮やかに彩られ、
その体験が色褪せずに記憶に残ること。それがフジフィルム スクエアの願いです。

“とこころ彩るところ”

私たちはこの言葉を胸に、さまざまな活動を通じて写真の素晴らしさや楽しさ、
そして残す大切さを伝え、写真文化の発展と心豊かな社会の実現に貢献していきます。

FUJIFILM SQUARE

ご挨拶

フジフィルム スクエアは、富士フィルム株式会社東京ミッドタウン（東京都港区）本社にある複合型ショールームです。優れた作品の発表の場「富士フィルムフォトサロン」、写真の歴史とカメラの進化を学べる「写真歴史博物館」、最新の写真関連商品を試せる「タッチ フジフィルム」、化粧品・サプリメントなどの当社ヘルスケア商品を取り揃えた直営店「ASTALIFT ROPPONGI（フジフィルムヘルスケアショップ）」で構成されています。2007年の開館以来、2021年度までに延べ1,600回におよぶ写真展を開催。写真を通して、「撮った人＝出展者」の気持ちを「見た人＝来館者」に伝え、ご来館いただいた750万人以上の方々のごところを彩ってきました。

富士フィルムは1934年の創業以来、写真フィルム事業で培った幅広い技術を蓄積・進化させ、価値のあるイノベーティブな製品・サービスを提供することで、社会の文化、産業の発展、健康増進、環境保持に貢献し、人々の生活の質のさらなる向上に寄与するよう取り組んできました。その中でフジフィルム スクエアが取り組む「写真を通じて人と人の心をつなぐ活動」を、心の豊かさや人々のつながりに貢献する活動と位置づけています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、フジフィルム スクエアは、来館者、出展者とスタッフの安全確保を第一に考え、2021年4月25日から5月31日まで臨時休館しました。再開にあたっては、安心安全な環境を作ることを最優先に運営し、79本の写真展を開催しました。

写真展企画においては、文化庁を中心とした「日本博参画プロジェクト」*、「生誕260年記念企画 特別展『北斎づくし』（凸版印刷株式会社主催）」、「国境なき医師団」等、さまざまな企業・団体と連携し、多様な視点を取り入れ、幅広い層の方々にご来館の心を届けることを目指しました。

また、コロナ禍でご来館が難しい方や、遠方の方にも写真を楽しんでいただけるようにデジタルコンテンツの充実を図り、Webサイトもリニューアルしました。

おかげさまで2021年度は約25万人の方にご来館いただくとともに、Webサイトにおける動画の総再生回数が2万回を超えるなど、多くの視聴者に楽しんでいただけました。

富士フィルムは、これからもフジフィルム スクエアでの感動を呼び起こす写真展示や、思い出をカタチにする写真関連製品・サービスの提供等を通じ、心の豊かさ、人々のつながりに貢献していきます。

*日本博参画プロジェクトとは、「日本の美」を国内外へ発信し、次世代へ伝えることでさらなる未来の創生を目指す、文化庁を中心として全国で体系的に展開する大型国家プロジェクト

CONTENTS

企画写真展レポート

FUJIFILM SQUARE 企画写真展

01	立木義浩写真展「遍照」～世界遺産 東寺～	…… 06
02	「魅力発見! 日本の世界文化遺産」～写真が語る日本の歴史～	…… 08
03	「日本人の魂・富嶽今昔三十六景」 ～北斎と4人の巨匠たち～ 織作峰子写真展「Homage to Hokusai」～悠久の時を旅して～	…… 10
04	「フォト・ジャーナリスト W. ユージン・スミスが見たもの — 写真は真実を語る」	…… 12
05	石井誠人写真展「alive photo -生きる-」	…… 14
06	大橋和典 Cat's写真館 ～自慢の猫ちゃんは、WALL DECORで飾る～	…… 14
07	昭和から令和まで高座撮影半世紀。 落語写真家 横井洋司 写真展「噺を写す」	…… 15

富士フィルムフォトサロン

若手写真家応援プロジェクト「写真家たちの新しい物語」

08	名雪晶子写真展「コン・アニマー魂を込めて、生き生きと」	…… 16
09	夏井 瞬 写真展「Waves」	…… 17
10	カピゴン松島写真展「カピバラ パンタナール湿原」	…… 18
11	Jay Hirano 写真展「Lockdown -Recovery, Rebuild, Restart-」	…… 19
12	大木雄介写真展「熊野×くまの×KUMANO」	…… 20
13	Rieko Honma写真展「白日夢」	…… 21
14	篠田岬輝写真展 「Contrast of Savanna-アフリカ 大草原で輝く生命-」	…… 22
15	小関一成写真展「霧幻の水森 -Lake Shirakawa-」	…… 23

当社協力写真展／

富士フィルムビジネスイノベーション 企画写真展

16	国境なき医師団 設立50年「私たちは声を上げる。」 マグナム・フォト連携写真展 一目撃者の証言	…… 24
17	日本サッカーの革新を支えた闘いの記録	…… 25

富士フィルム 企画写真展

18	このひらで集める、しあわせ展 ～ハーフサイズプリントで、毎日をもっと楽しく～	…… 26
19	XFP写真展「感じて 魅せる色—XF Stories」 第一期／第二期	…… 26
20	見せてよ、きみが見てる世界。“instax mini Evo” Gallery	…… 27
21	久野鎮の創作写真展 「あなたは夢になれることがありますか!」	…… 27
22	「GALLERY PHOTO CONTEST #お部屋に飾りたい1枚」	…… 27

FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展

23	写真家がカメラを持って旅に出た 北井一夫「村へ、そして村へ」	…… 28
24	大竹省二「カラー写真が夢見た時代 COLOR DREAMS」	…… 29
25	フジフィルム・フォトコレクション特別展 「師弟、それぞれの写真表現」	…… 30
26	写真家 水谷章人 作品展「甦る白銀の閃光」	…… 31

写真展開催リスト

当社が主催・共催・協力する企画展33本(写真家たちの新しい物語8本、写真歴史博物館の企画写真展4本含む)、公募展46本、合計79本

施設概要レポート

施設案内

…… 32

…… 36

…… 38

立木義浩写真展「遍照」～世界遺産 東寺～

2021年6月11日(金)～6月30日(水)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2・ミニギャラリー

展示概要

世界遺産にして真言宗の総本山である東寺(教王護国寺)。その講堂には、「両界曼荼羅図」を立体的に表した仏像群が安置されています。「両界曼荼羅図」は、悟りの境地である宇宙の真理、理想の世界を分かりやすく描いたもので、密教における唯一最高の仏、大日如来を中心に諸尊が整然と並びます。

1998年、写真家・立木義浩氏は撮影のため東寺を訪れるなり、この寡黙にして雄弁な被写体に魅せられました。そして、撮影にのめり込み、写真集『東寺—生命の宇宙』(集英社)にまとめました。それから20年余りが経ち、再び東寺を訪れた立木氏が手に構えたのは、富士フィルムのラージフォーマットデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100」と「GFX100S」でした。

本展では、2020年の暮れから2021年の初春にかけて3度にわたり、立木氏が東寺で撮影した50点のモノクロ作品を展示。タイトルの「遍照」は、大日如来の別名および空海の灌頂名である「遍照金剛」に由来します。その意味は、「この世の一切を遍く照らす不滅なもの」。真理は目に見えなくてはならないとする密教の精神を顕す「両界曼荼羅図」を見渡し、立木氏が琴線に触れた瞬間に写し取った作品は、かつての作品とはまた異なる趣で、より精彩に仏像と空間に宿る生命感を伝えました。

Web公開動画

立木義浩氏が語る写真展開催記念インタビュー動画
「一瞬一瞬 発見したい」



来館者数

合計15,880人(20日間)

主要メディア掲載

新聞:日本経済新聞夕刊(大阪、6月14日/東京、6月14日)、徳島新聞(6月15日・19日)、岩手日報(6月16日)、東京新聞(6月21日)/ウェブサイト:朝日新聞デジタル&M、@DIME、iza、産経ニュース、JBpress、東洋経済オンライン、PRESIDENT Online、読売新聞オンライン、MdN Design Interactive、グノシー、livedoorニュース、LINE NEWS

実施レポート

「日本の世界文化遺産」をテーマにした、3つの写真展の第1弾として開催した本展。長きにわたり日本の写真界の第一線で活躍し続ける立木氏による新たな挑戦で描かれた作品の世界を堪能いただく写真展となりました。

著名人の撮影を多数手掛けてきた立木氏は、広大な「両界曼荼羅」の中を縫うように歩き回り、仏像を静物ではなく「スナップポートレート」として撮影しました。また、デジタルカメラの高感度性能を踏まえ、光が少ない講堂内で、時には手持ちで軽やかに、時には三脚を立ててじっくりと、心と体の赴くままに撮影。独自のライティングとアングルにより、立木氏にしか表現できない仏像の姿が現れました。さらに、「GFX100」に新たに搭載された、ピクセルシフトマルチショット機能による4億画素での撮影にも挑戦し、世界最高レベルの画質で立体曼荼羅を再現しました。

展示では、大きく引き伸ばされたプリントが、東寺の世界に入り込んだかのような没入感を演出しました。中でも、帝釈天半跏像を写した作品が、3×4メートルの大きさをプリント展示され、ひととき存在感を放ちました。立木氏のファンをはじめとする多くの来館者から、躍動感と生命力にあふれる立木氏の写真表現や「GFXシリーズ」の高精細な再現性、そして迫力あるプリントを絶賛する声が多く寄せられました。また、本展を通じてモノクロ写真の魅力を再認識したという感想もいただくなど、写真展でこそ得られる感動を味わっていただくことができました。

また、本展の開催を記念して、立木氏に東寺の仏像群に対する思いや撮影についてお話しいただくインタビュー動画を会場内とWebサイトに公開。撮影の裏側を垣間見ることができる内容は反響を呼び、Webサイトでの再生回数は4,600回を超えました*。本展鑑賞とあわせてご覧になった方へ、ご来館が難しい方や遠方の方にも視聴いただき、立木氏の撮影にかける思いを広くお伝えすることができました。

*2022年3月31日時点

来館者の声

素晴らしい写真でした。仏像も温かい感じがしました。写真家の心の温度といるのでしょうか。

東寺に行って目の前で仏像を見ているかのような気分になりました。手の表情、顔の表情が人間のように見え、立木先生の気持ちが伝わりました。

写真から今にも飛び出してくるような躍動感があり、見応えがありました。

絶対的な静寂のひとときを味わいました。

漆黒の中に浮かび上がる仏の姿からとても静かで壮大な雰囲気を感じました。日本に生まれて良かった。

生身の人間より人間らしさを感じました。どこか、色気があるようで、「まるでポートレート」と感じました。

仏像ってこんなに表情が豊かだったんですね! 立木先生のお写真を拝見して驚かされました。1200年の時空を超えて出会えた奇跡に感謝です。

動画視聴者の声

仏像をポートレートとして撮るとい立木さんのスタンスがとても面白く、撮られた写真を見て深く納得しました。

立木さんの撮影への思いを知り、「自分ならどう撮るのだろう」と考えさせられた。



「魅力発見! 日本の世界文化遺産」～写真が語る日本の歴史～

2021年7月1日(木)～7月20日(火)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2・ミニギャラリー



展示概要

日本国内には23件*の世界遺産があります。うち19件*が文化遺産として登録されており、そのほとんどが日本史の時代区分と時代背景を象徴する建造物として残されています。本展は、全19件の文化遺産を日本を代表する写真家たちの作品によって日本の歴史を通観しながら紹介しました。

展示作品は、日本の写真界を代表する土門拳(1909-1990)、奈良大和路のイメージを定着させた入江泰吉(1905-1992)、建築写真の第一人者・渡辺義雄(1907-2000)、日本の造形美を鋭く切り取った西川孟(1925-2012)、京都の古社寺や風景を半世紀にわたって撮り続ける水野克比古(1941-)、高野山に生まれ育ち、山岳宗教をテーマとする永坂嘉光(1948-)、[楽園]をテーマに世界を巡るとともに、日本の世界遺産を撮影する三好和義(1958-)など、日本の美と文化を見つめ、撮り続けてきた写真家たちの作品で構成。日本特有の美と文化に出合う絶好の機会として、また、歴史の流れと合わせて見ることで、日本の魅力を再発見できる写真展としました。

*2021年7月1日現在

出展写真家

入江泰吉、渡辺義雄、土門拳、西川孟、岡本茂男、柴田秋介、牧野貞之、江成常夫、藤塚光政、水野克比古、田村仁、藤原新也、三沢博昭、菅洋志、石橋睦美、永坂嘉光、三好和義(生年順)

展示作品点数

60点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
後援:世界遺産リレー催事実行委員会、一般社団法人世界文化遺産地域連携会議、港区教育委員会 ※本展は「日本博参画プロジェクト」です。
監修:高崎商科大学特任教授 熊倉浩靖
企画/デザイン:クレヴィス
プリント制作:プロラボ クリエイト



併催イベント

小・中学生向け「写真展見どころガイド」を配布
※会期中随時

販売物

『日本の世界文化遺産』(クレヴィス)

Web公開動画

世界遺産の研究者 熊倉浩靖氏による
写真展開催記念動画
前編「世界遺産、日本の世界文化遺産10件のお話」
後編「日本の世界文化遺産9件、世界遺産とSDGsのお話」



主要メディア掲載

ウェブサイト:朝日新聞デジタル&M、@DIME、iza、ウレぴあ総研、CREA WEB、産経ニュース、JBpress、東洋経済オンライン、NewsCafe、ハピママ*、PRESIDENT Online、読売新聞オンライン、LINE NEWS、RBBTODAY、CNET JAPAN、デジカメWatch

来館者数

合計13,520人(20日間)

実施レポート

「日本の世界文化遺産」をテーマにした写真展の第2弾である本展は、観光スポットとしても人気の高い文化遺産を選びすぐりの写真作品で紹介し、旅する気分を楽しめる写真展となりました。

格調高い作品を堪能しながら、歴史に沿って日本文化の奥深さを実感できる展示は、館内のアンケートで、本展を目的に訪れた来館者の約95%の方から「よかった」とご回答いただくなど好評を博しました。また、さまざまな写真家たちの名作を一度に鑑賞できることへの満足感、迫力ある美しいプリントに対する感動、写真を通じて日本の文化遺産の素晴らしさを再認識したという声などが寄せられました。そして、文化遺産へ訪れた際の思い出やふるさとを懐かしむ感想もいただきました。

本展では関連プログラムとして、世界文化遺産地域連携会議の理事である熊倉浩靖氏のご協力で、本展開催の記念動画を前編・後編に分けて制作し、会場内とWebサイトで公開しました。本展で取り上げた文化遺産の特徴を歴史に沿って解説した他、世界遺産とSDGsの関わりについて紹介したもので、熊倉氏は本展について、「展示される写真には日本の真が写っている」と称賛くださいました。多くの方が関心を持って動画を視聴され、本展をより深く理解いただくことができました。

さらに、同氏監修の下、小・中学生向けのパンフレットとして「写真展見どころガイド」を制作し、会場内で配布しました。日本の歴史をたどりながら本展で取り上げた文化遺産を紹介する内容で、日本の文化遺産や歴史に対する学びのきっかけを提供しました。本展は親子で鑑賞する姿も多く、老若男女問わず、さまざまな世代に喜んでいただいた写真展となりました。

来館者の声

写真が大きくて迫力があり、感動しました。小さな写真では見過ごしてしまったかもしれないことを発見できました。

美しく、ダイナミックで、ロマンチックで、見応えがありました。もっと見たい!と思わせる展示でした。順路もわかりやすく良かったです。

無料でこんなに素晴らしい写真を鑑賞できることに驚きました。写真に説明もしっかり添えてあり、文化財への理解も深まりました。

写真がとても美しく、見応えがあります。特に寺社仏閣、仏像が迫力あり素晴らしい。

美しい写真で世界遺産の展示を見ることができて、大変良かったです。

写真の迫力がすごかったです。また、いろいろな写真家の方の作品を見ることができ、楽しかったです。

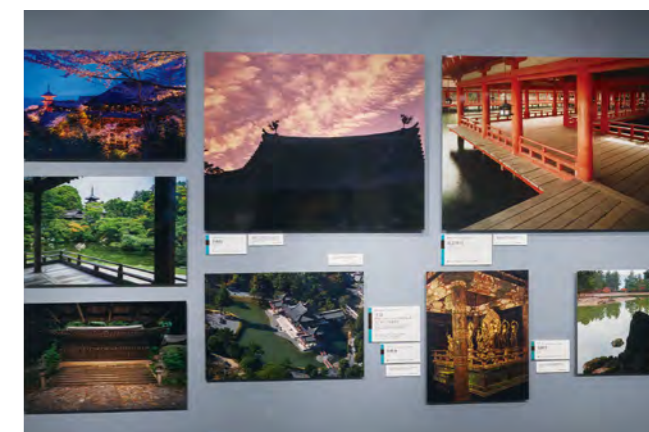
いろいろな世界遺産の展示があり、勉強に役立った。

作品を見ていると、故郷の景色を思い出しました。

写真がどれも綺麗で躍動感がありました。現地に行きたくなりました。

動画視聴者の声

コロナ禍で行動に制限が多い時期に、自宅にいながら動画で素晴らしい写真を拝見できて良かったです。解説も分かりやすく、聴きやすくちょっと素敵な時間でした。実際に行ったことがないところには、是非行ってみたいと思いました。



(1) 「日本人の魂・富嶽今昔三十六景」～北斎と4人の巨匠たち～
 (2) 織作峰子写真展「Homage to Hokusai」～悠久の時を旅して～

2021年7月21日(水)～8月19日(木)
 (1) 富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2・ミニギャラリー
 (2) 富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



展示概要

江戸後期の浮世絵師、葛飾北斎の代表作「富嶽三十六景」の貴重なオリジナル4点(所蔵: 山口県立萩美術館・浦上記念館蔵(浦上コレクション)他)を凸版印刷株式会社のご協力により、富士フィルムのラージフォーマットデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100」で複写し、大型の銀写真プリントに仕上げて展示しました。

そして、日本を代表する4人の写真家一岡田紅陽(1895-1972)、白旗史朗(1933-2019)、竹内敏信(1943-2022)、大山行男氏(1952-)による格調高い富士山の作品各8点を銀写真プリントに仕上げて展示し、千変万化に表情を変える富士山の姿を伝えました。

また、「織作峰子写真展「Homage to Hokusai」～悠久の時を旅して～」を同時開催。世界各国の美しい風景や人物の瞬間を撮り続けながら、日本の伝統工芸である箔と写真の融合を試みる作品づくりにも取り組む織作氏が北斎へのオマージュとして、「富嶽三十六景」が描かれたポイントを「GFX100」で撮影し、富士フィルムの業務用ワイドフォーマットUVインクジェットシステム「Acuity」で箔にプリントして仕上げた作品を展示しました。

出展写真家・作家

- (1) *葛飾北斎、岡田紅陽、白旗史朗、竹内敏信、大山行男(生年順) (2) 織作峰子
 ※(1)は「日本人の魂・富嶽今昔三十六景」、(2)は織作峰子写真展「Homage to Hokusai」(以下省略)

展示作品点数

- (1) 36点 (2) 17点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
 後援:世界遺産リレー催事実行委員会、一般社団法人世界文化遺産地域連携会議、港区教育委員会 ※本展は「日本博参画プロジェクト」です。
 監修:(1)山と溪谷社 萩原浩司(「山と溪谷」元編集長)
 協力:(1)凸版印刷株式会社(生誕260年記念企画 特別展「北斎づくし」)
 (2)凸版印刷株式会社(生誕260年記念企画 特別編「北斎づくし」連携)、株式会社セントラルプロフィックス
 企画/デザイン:クレヴィス
 プリント制作:(1)写真弘社、プロラボ クリエイト (2)株式会社セントラルプロフィックス



販売物(1)

- ・「山と溪谷8月号」(山と溪谷社)
- ・白旗史朗「世界遺産富士山」(新日本出版社)
- ・大山行男「神さぶる山へ」(新泉社)
- ・白旗史朗「写真紀行変幻富士」(新日本出版社)
- ・岡田紅陽「富士」(岡田紅陽記念美術館)
- ・「日本の世界文化遺産」(クレヴィス)
- ・竹内敏信「富士山」(出版芸術社)

Web公開動画(1)

写真展監修 山と溪谷社 萩原浩司氏
 (「山と溪谷」元編集長)による
 写真展開催記念動画



主要メディア掲載(1)

ウェブサイト:朝日新聞デジタル&M、東洋経済オンライン、読売新聞オンライン、LINE NEWS、PRESIDENT Online、毎日新聞WEB

主要メディア掲載(2)

ウェブサイト:MdN Design Interactive、グノシー、ZDNet Japan、CNET JAPAN、東洋経済オンライン、PRESIDENT Online、毎日新聞WEB、読売新聞オンライン、livedoorニュース

来館者数

合計21,531人(30日間)

動画視聴者の声

編集長の柔らかな語り口で分かりやすく解説していただき、富士山の表情に釘付けになりました。写真の力ってすごいですね。

会場作品を鑑賞した後、会場の動画を見ました。そして、もう一度作品を見たら、さらに楽しめました。

実施レポート

「日本の世界文化遺産」をテーマにした写真展の最終章は、「信仰の対象と芸術の源泉」として2013年に世界文化遺産に登録された、富士山を取り上げました。四季折々に、また刻一刻と姿を変える富士山に心を奪われ、その魅力をそれぞれに捉えた北斎と4人の巨匠たちの作品が一堂に会した本展は、200余年の時を超えた夢の競演となりました。

「富嶽三十六景」をはじめ数々の傑作を生み出し、19世紀の西洋美術に大きな影響を与えた葛飾北斎。生涯をかけて富士山写真の礎を築き、多くの作品が紙幣や切手に採用された岡田紅陽。岡田に師事し、後に日本山岳写真の第一人者となった白旗史朗。富士山を日本人の原風景の象徴と位置付け、自身の心に描く富士山を撮影し続けた竹内敏信。富士山麓に居を構えて日々富士山と対峙し、独自の作風、境地を追求し続ける大山行男氏。時代背景も表現手法も異なる多彩な作品を通じて、富士山に対する芸術表現の幅や奥深さを体感いただける写真展となりました。

同時期に東京ミッドタウンで開催された「生誕260年記念企画 特別展「北斎づくし」(凸版印刷他主催)との相乗効果もあり、連日、幅広い世代の多くの方にお楽しみいただきました。館内のアンケートでは、本展を目的に訪れた来館者の約93%が「よかった」と回答。富士山の壮大さや巨匠たちの素晴らしい作品に対して感動の声が寄せられ、いつの時代にも日本人に親しまれてきた富士山の魅力を改めて感じていただける機会となりました。また、カラー・モノクロ作品ともに迫力ある美しい銀写真プリントの展示もご好評いただきました。

「織作峰子写真展」では、箔と写真の融合という独自の手法と感性で表現された、美しい富士山の作品に多くの人が魅入っていました。

また、開催に併せて、本展を監修いただいた山と溪谷社の萩原浩司氏(「山と溪谷」元編集長)による解説動画を会場内とWebサイトにて公開。本展への関心が高まるとともに、作品に対する深い理解にもつながりました。

来館者の声 (1)「日本人の魂・富嶽今昔三十六景」

- 富士山の代表的な写真家たちの写真を一回の写真展で見ることができて、贅沢な気持ちになりました。
- 昔の富士山から現代の富士山まで、富士山の永遠なる美しさを味わうことができました。
- 美しく、心が洗われるような写真に見惚れてしまいました。
- 「北斎づくし」展と同じ時期に開催されており、コラボレーションが良かったです。
- 富士山が大好きです。充実した内容の写真に満足しました。
- 壮大な写真ばかりで圧倒されました。
- 子供も興味を持って楽しめる展示で、とても良かったです。

来館者の声 (2)「織作峰子写真展「Homage to Hokusai」～悠久の時を旅して～」

- 迫力ある作品は貴社ならではの期待して来ました。とても良かったです。
- 写真に感動しました。富士山の素晴らしさを再発見できました。



「フォト・ジャーナリスト W.ユージン・スミスが見たもの — 写真は真実を語る」

2021年11月5日(金)–11月25日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2・ミニギャラリー

FUJIFILM SQUARE 企画写真展

フォト・ジャーナリスト
W.ユージン・スミスの
見たもの



— 写真は真実を語る —

2021年11月5日[金]–25日[木]
10時–19時 会期中無休・入館無料
(最終日は16時まで、入館は終了10分前まで)

FUJIFILM SQUARE

展示概要

1930年代から50年代、フォト・ジャーナリズム全盛の時代に『ライフ』誌をはじめとする数々のグラフ雑誌を舞台に活躍した伝説のフォトジャーナリスト、W.ユージン・スミス(1918-1978)。常に被写体の側に自分を置き、ヒューマンズムの視点で撮影された情熱的な写真は、報道写真のあり方を問い直し、多くの人々の心を揺さぶり続けてきました。「フォト・エッセイ」と呼ばれる、複数の写真と短い解説文によって誌面を構成するスミスの表現形式は、彼の卓越した撮影技術やプリント技術、高い美意識によって芸術として完成され、多数の記念碑的な傑作が世に送り出されました。

スミスは日本とも縁が深い写真家で、取材パートナーであり伴侶でもあったアイリーン・美緒子・スミス氏と共に1971年から3年にわたり熊本・水俣に移住し、有機水銀による公害の実情を取材。写真集『水俣』は、2020年に製作された映画『MINAMATA(原題)』(監督:アンドリュー・レヴィタス/主演:ジョニー・デップ/アメリカ/2020年、日本では2021年9月公開)の原話として、近年再び注目を集めました。

本展は、京都国立近代美術館のご協力を得て、同館所蔵のW.ユージン・スミスの写真コレクション「アイリーン・スミス・コレクション」より、選りすぐりの名作64点を展示しました。



スミスのフォト・エッセイが掲載された『ライフ』誌の実物展示
アイリーン・美緒子・スミス氏

主要メディア掲載

ウェブサイト: @DIME、iza、Infoseekニュース、ウレぴあ総研、エキサイトニュース、eltha、ORICON NEWS、CREA WEB、産経ニュース、JBpress、ジヨルダンニュース!、NewsCafe、ハピママ*、BIGLOBEニュース、PRESIDENT Online、読売新聞オンライン

来館者数

合計16,881人(21日間)

展示作品点数

64点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
特別協力:京都国立近代美術館
協力:アイリーン・アーカイブ、日本大学図書館芸術学部分館
後援:港区教育委員会
企画:フォトクラシック
デザイン:協野直人

販売物

- ・『W.ユージン・スミスの写真』(京都国立近代美術館)
- ・京都国立近代美術館 所蔵作品目録『写真』
- ・『W.Eugene Smith』(クレヴィス)
- ・『MINAMATA』(クレヴィス)
- ・石井妙子『魂を撮ろう』(文藝春秋)

実施レポート

「アイリーン・スミス・コレクション」は、アイリーン・美緒子・スミス氏が厳選し、長年にわたり手元に保管してきた作品群で、全284点で構成されています。スミスの写真家としての活動の全容をほぼ網羅し、そのプリントの大部分はスミス自身が手掛けた貴重なもので、写真家W.ユージン・スミスの真の姿を伝える、内容、質ともに最高水準のコレクションとなっています。

本展は同コレクションより、『ライフ』誌の戦争通信員として撮影した《第二次世界大戦》(1943-1945年)、コロラド州の小さな町に住む医師の人間性に迫った《カントリー・ドクター》(1948年)、貧しいながらもたくましく生きる農民たちの姿を美しく完璧な写真で描いた《スペインの村》(1950-1951年)、アフリカで医療奉仕活動に従事した、シュヴァイツァー博士の献身的な姿と苦闘を描いた《慈悲の人シュヴァイツァー》(1954年)、都市そのものを1つの生命体として捉え、台本のないまま撮影した《ピッツバーグ》(1955-1956年)などの傑作、そして晩年のシリーズ《水俣》(1971-1975年)を展示しました。また、日本大学図書館芸術学部分館のご協力により、スミスのフォト・エッセイが掲載された『ライフ』誌の実物を展示した他、作品が生まれた背景をパネルや作品キャプションで解説。スミスがフォト・ジャーナリズムの歴史に残した偉大な軌跡をたどるとともに、彼の内面に迫る写真展となりました。

会期中、来館者の約87%が本展を目的に訪れており、中には映画『MINAMATA』をきっかけにスミスの写真に興味を持ったという方もいらっしゃるなど、多くの方から関心が寄せられました。館内のアンケートでは、本展を目的に訪れた来館者の約96%が「よかった」と回答され、スミスの情熱的な制作姿勢に感銘を受けたという感想を多数いただきました。また、スミスの代表作の一つである《楽園への歩み》(1946年)をオリジナルプリントで鑑賞できて感動したという声も寄せられるなど、スミスの重厚で美しいプリントをご堪能いただく機会にもなりました。

来館者の声

ユージン・スミスの作品を初めて見ました。作品の美しさに見惚れました。そして、その時代の持つ重さも伝わってきました。来て良かったです。

丁寧なキャプションを読み、より深く理解することができ、感動が深まりました。とても良い時間を過ごすことができ、大満足です。感謝します。

写真の背景についての説明が充実していて、最高の展示でした。ユージン・スミス氏の生き方に感動しました。

貴重な作品を鑑賞できる写真展を開催していただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。ユージン・スミスのことを深く知ることができました。

オリジナルプリントと伺い、驚きました。貴重な展示を見ることができてありがとうございます。

写真は人の気持ちを揺さぶると思いました。

美しい写真を見ることができたことに感謝します。ありがとう。

見ている間、時間が止まったように感じました。

写真からユージン・スミスの心の動きを感じた。見応えがあった。

写真が綺麗で感動しました。貴重な作品を無料で見ることができて、ありがたいです。



05 石井誠人写真展「alive photo -生きる-」

2021年10月15日(金)～11月4日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



ウェディング・フォトグラファーの石井誠人氏がライフワークとして取り組んでいるのが、病と闘いながら生きようとしている人を撮る“alive photo(アライブ・フォト)”です。「病に苦しむ方の癒やしや笑顔につながれば」「家族や友人、恋人のために何かを残せれば」という石井氏の強い思いが込められています。本展では、家族に支えられながら懸命に生きる4名を写した作品と、ご本人やご家族、関係者からのコメントを展示。「生きること」について感じ、考える写真展となりました。

展示作品点数

35点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
企画／デザイン：株式会社日本写真企画
プリント制作：プロラボ クリエイト、
富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

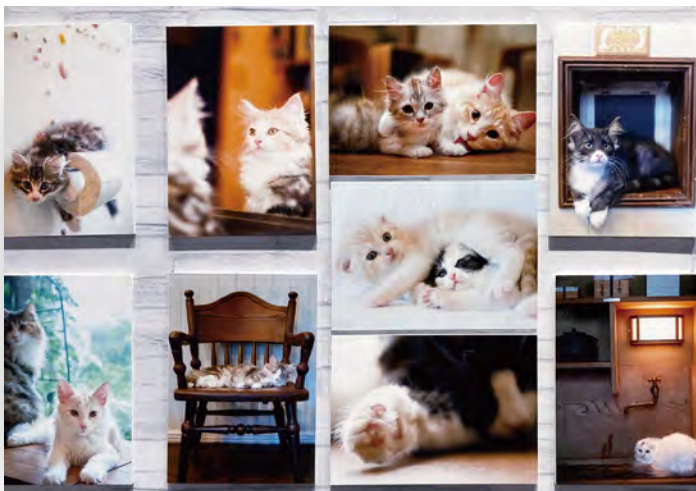
来館者数

合計14,274人(21日間)



06 大橋和典 Cat's写真館 ～自慢の猫ちゃんは、WALL DECORで飾る～

2021年10月15日(金)～11月4日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー



写真家 大橋和典氏は、富士フィルムのミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T2・X-T3」を使い、キャットショーのチャンピオン級の美しい猫やご自宅のかわいい子猫など、さまざまな猫を数年にわたり撮影しています。本展では、当社のネットプリントサービス「FUJIFILM Prints & Gifts」で「WALL DECOR」をご活用いただき、愛らしい猫たちの写真をパネルに加工して、作品に仕上げ展示しました。

展示作品点数

58点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
デザイン：富士フィルムビジネスエキスパート株式会社
プリント制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

販売物

「Cat's写真館」

来館者数

合計14,274人(21日間)



昭和から令和まで高座撮影半世紀。 落語写真家 横井洋司 写真展「^{はなし}噺を写す」

2022年3月4日(金)–3月17日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2



展示作品点数

50点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社

後援：一般社団法人落語協会、公益社団法人落語芸術協会、五代目円楽一門会、
落語立川流、鈴木演芸場、末廣亭、浅草演芸ホール、池袋演芸場、
独立行政法人日本芸術文化振興会(国立演芸場)、毎日新聞社、読売新聞社、
TBSテレビ「落語研究会」、有楽町朝日ホール、
ソニー・ミュージックダイレクト来福レーベル、港区教育委員会

協力：有限会社 東京かわら版、株式会社 小学館

デザイン：三田村邦亮

プリント制作：写真弘社

販売物

- 『横井洋司写真集 名人・粋人・奇人 昭和平成落語写真鑑』(小学館)
- 東京かわら版出版物(東京かわら版バックナンバー、東西寄席演芸家名鑑2 2021年版など)
- 東京かわら版グッズ(ぼち袋、クリアホルダー、手ぬぐいなど)

来館者数

合計10,069人(14日間)

来館者の声

表情豊かな噺家の皆さんがずらりと並び、有名なセリフも散りばめられているため、写真に目を向けつつも、耳には噺家さんの肉声が蘇ってくるようでした。

噺家さんたちの写真が生き生きとしていて、今にも語りだしそうで、感動しました。

横井洋司氏は、昭和・平成・令和にわたり半世紀近く、新聞や雑誌などに高座写真を発表し続け、今も演芸写真の第一人者として活躍しています。本展は、明治生まれの昭和の名人・六代目三遊亭圓生から、五代目柳家小さん、十代目金原亭馬生、古今亭志ん朝、立川談志、柳家小三治、現在の落語界の先頭を走る立川志の輔、柳家喬太郎、令和の若手の代表格である春風亭一之輔までの49名、50点の作品で王道の落語史をたどりました。「仕草や表情の視どころは、芸の聴きどころである」という横井氏の言葉のとおり、落語家が噺を表現する最高の瞬間を写し取った作品群は臨場感にあふれ、横井氏のコメントで撮影のエピソードを記したキャプションと併せてご堪能いただきました。

会場構成においては、寄席でおなじみの^{のぼり}幟 やめくり、落語のフレーズを記したパネルを設置し、出囃子のBGMも流すといった工夫を盛り込み、高座の雰囲気を感じながら鑑賞できる写真展としました。また、本展のタイトルを寄席文字の書家である^{のぼり}橘右楽氏に書いていただき、会場や告知物に使用。直筆の原稿は会場に展示しました。さらに、落語の基礎知識を解説したパネルの掲示や落語公演のチラシの配布を通じて、落語になじみのない方にも落語の魅力を知っていただく機会となりました。

その他にも、横井氏や寄席の経営者、落語界の方々へのインタビュー動画を会場内とWebサイトで公開し、横井氏の撮影にかかる思いや創作の裏側を伝えました。物販コーナーでは、横井氏の写真集や、本展にご協力いただいた東京かわら版刊行の落語関連書籍やポチ袋などのグッズを販売しました。

本展に対して大変多くの反響をいただき、落語写真の記録の価値や落語を写真で見ると見る楽しさを感じていただく写真展となりました。



Web公開動画

横井洋司氏が語る写真展開催記念動画

「昭和から令和まで、半世紀の高座撮影を振り返る。」



動画視聴者の声

横井先生のお人柄や思いを知ることができました。また、席亭さんや噺家さんのインタビューもとても楽しく拝見しました。

名雪晶子写真展「コン・アニマ—魂を込めて、生き生きと」

2021年4月2日(金)–4月15日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3

「写真家たちの新しい物語」について

富士フィルムフォトサロン 東京は、若手写真家の皆様に写真展を行う意義や楽しみを見出していただき、写真文化の発展に繋げるため、2013年に若手写真家応援プロジェクト「写真家たちの新しい物語」を開始。2021年3月までに合計32回を開催しています。当社は写真展を開催するためのプリント制作費等を支援しています。

大学時代に本格的に写真を撮った名雪晶子氏は、手中に収められず、瞬時に姿を変える水に興味を持ち、水を被写体にした写真を撮り続けてきました。

名雪氏初の個展となる本展のタイトル、「コン・アニマ」は音楽用語であり、イタリア語で「魂を込めて」(生き生きと)という意味です。名雪氏は、撮影する中で水の内に秘めたエネルギーを感じ、それをタイトルに表したそうです。

作品は大小さまざまなサイズのプリントに仕上げ構成し、「生き生きとした力がはじけて音楽がきこえてくる、その場に共存するものたちがそれぞれの旋律を奏でつつも、ひとつの曲になっている」という名雪氏のイメージを表現。透明感にあふれ、明るい光と生命力に満ちた作品が会場を彩りました。

人間の目では見ることでできない水の姿を捉えた作品は、来館者に新鮮な驚きを与えました。また、作品づくりについて語ったインタビュー動画においても、名雪氏のみずみずしい感性が表れていました。



展示作品点数

33点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
企画協力：羽鳥書店、Book Photo PRESS
デザイン：長尾敦子
プリント制作：プロラボ クリエイト

販売物

名雪晶子 写真集『コン・アニマ—魂を込めて、生き生きと』(羽鳥書店)

来館者数

合計9,568人(14日間)

来館者の声

作品を見て気分が晴れた。元気が出た。

大きな作品が正面にあって、作品の世界観に飛び込んでいくな気がした。

Web公開動画

名雪晶子氏が語るインタビュー動画「水の形に魅了された」



出展者の声

写真展にいらっしゃったたくさんの方々と作品についてお話ししていくうちに自分の作品のイメージーションが広がるとともに、今回のシリーズの最も大切な部分を客観的にとらえることもできるようになり、より気が引き締まりました。たくさんの方々にみていただくことの大切さを実感することができ、忘れられない経験となりました。

夏井 瞬 写真展「Waves」

2021年7月2日(金)～7月15日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3

季節や天候、時間帯などさまざまな自然条件のうち、たった一つが変わるだけで全く違う表情を見せる波。その姿に魅了された夏井瞬氏は、2019年から本格的に波を撮り始めました。「今まで見たことがない波の表情を伝えたい」という思いのもと、波が崩れる瞬間を狙って波の下に潜り込み、波に打たれながら撮影した作品は美しさや力強さにあふれ、夏井氏自身の高揚感も伝わってきます。

夏井氏は撮影を日の出前から始めます。まずは幻想的な色合いの空に照らされた波をカラーで捉え、日が高く昇るとモノクロに切り替えて撮影。本展においても、カラー作品とモノクロ作品を半々にして、夏井氏の撮影スタイルを体感できる構成にしました。大きくプリントされ臨場感ある作品を前に、来館者は魅入っていました。

インタビュー動画で夏井氏は、「目の前に迫る波に自分がどう反応し、シャッターを切るか向き合ってきた」と語り、作品づくりに打ち込む姿を伝えていました。



本写真展をきっかけに、夏井氏は六本木ミッドタウンにあるアートショップ「STYLE MEETS PEOPLE」で開催された夏の企画展『CALM IN BLUE』(会期:2021年8月13日～9月2日)や、石巻の芸術祭「Reborn-Art Festival 2021-22」(会期:2021年8月11日～9月26日)に出品するなど、活動の幅を広げました。

展示作品点数

29点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
デザイン:夏井瞬
プリント制作:プロラボ クリエイト

販売物

「Waves」(自費出版)

来館者数

合計9,802人(14日間)

来館者の声

夏井さんの作品は「波の彫刻」だと思った。

波は冷たいものだが、写真からは温かいものを感じた。

Web公開動画

夏井瞬氏が語るインタビュー動画「波と出会う高揚感を伝えたい」



出展者の声

写真が好きな多数の方々には作品を見てもらえる機会はとても貴重でした。僕の情報が全くない人に自分の作品をどう理解してもらうかを深く考え、展示レイアウト、撮影風景の動画展示など、いろいろ工夫しながら空間を作るという新鮮な体験ができました。

カピゴン松島写真展「カピバラ パンタナール湿原」

2021年8月20日(金)～9月2日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3

のんびりしたキャラクターで動物園の人気者となっているカピバラは、実は活発に動き、表情も豊かな生き物。カピバラ専門のフォトグラファーであるカピゴン松島氏は、その魅力あふれるカピバラの姿を写真で伝えようと、日本国内の動物園や水族館のみならず、カピバラの生息地である南米各国にも足を延ばし、精力的に活動しています。

本展では、「弱肉強食の世界でたくましく生きるカピバラたちの姿を新しい魅力として発信したい」という松島氏の意図のもと、南米大陸の中央に位置するパンタナール湿原で撮影した作品を展示。生き生きとした姿を捉えた作品は来館者を魅了し、愛らしくもあり、力強くもあるカピバラの姿を伝える機会となりました。

インタビュー動画において松島氏は、鑑賞のポイントとして、「街中で穏やかに暮らすカピバラと野生のカピバラは、表情に違いがある」と話しています。その動画を来館前に視聴して鑑賞に役立てた方もいらっしゃいました。

展示作品点数

22点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
協力／デザイン：株式会社日本写真企画
プリント制作：プロラボ クリエイト

販売物

カピバラTシャツ、カピバラ缶バッジ、カピバラキーホルダー、カピバラポストカード

来館者数

合計9,696人(14日間)

来館者の声

今まで知らなかった勇ましいカピバラを知ることができて新鮮だった。

可愛くて癒やされました。現地のカピバラを見たいです。

たくましい野生のカピバラを見て、これからもこの環境を守っていくことが大切だと思いました。



Web公開動画

カピゴン松島氏が語るインタビュー動画

「生き生きとした野性味あふれるカピバラの姿を知ってほしい」



出展者の声

写真業界の第一線で活躍するプロフェッショナルの方々が集う富士フィルムフォトサロンでの写真展を経験し、プリント技術、品質、展示手法やアイデアなど、ありとあらゆる部分で目を養うことができました。そして、その後の個展の完成度がグッと上がりました。

Jay Hirano 写真展

「Lockdown -Recovery, Rebuild, Restart-」

2021年10月22日(金)–11月4日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2

【写真家たちの新しい物語】 富士フィルムフォトサロン若手写真家応援プロジェクト

2020年3月、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行する中、ヨーロッパ各国はロックダウン(都市封鎖)を実施しました。街から人がいなくなるという異様な光景に直面し、「この状況を誰かが記録しなければいけない」と立ち上がったのが、イギリス在住のミュージシャンでありフォトグラファーのJay Hirano氏です。Hirano氏は半年かけてロックダウン下のヨーロッパ各国を巡り、ストリートスナップを撮影。ズームレンズを使わない、単焦点レンズでの撮影にこだわりました。

様変わりした街並みを写し取った作品が如実に物語ったのは、ロックダウンが人々の生活に与えた経済的なダメージでした。一方、困難な状況下で人々が助け合う姿にHirano氏が感じ取った、人の優しさも表現されました。作品の持つ迫力とHirano氏の豊かな感性による写真表現は、大判プリントの展示により一層際立ちました。

会期中、Hirano氏は来館者に積極的に写真の解説をしたり、出展作品をモチーフにしたTシャツ等を販売するなどして、交流を深めました。



展示作品点数

39点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
デザイン:三村 漢
プリント制作:プロラボ クリエイト

販売物

- ・ モバイルスタンド(5種)
- ・ ポストカード(15種)
- ・ キーホルダー(6種)
- ・ 作品販売

来館者数

合計9,758人(14日間)

来館者の声

「ロックダウンの記録を撮る」ということをやって、そして、見せてくれてありがとう。

テーマ性のある作品を見ることで貴重な体験ができた。

「その時」「その時代」にしか撮れない写真だと思い興味深かった。

Web公開動画

Jay Hirano氏が語るインタビュー動画

「ロックダウンのヨーロッパの写真から『人の優しさ』を感じてほしい」



出展者の声

大きな個展ができたこと、自分の作品をこのように大きくプリントしたこと、色々な人と知り合えるきっかけになったこと、そして大勢の方に作品を見ていただき、感想を聞かせてもらえたこと、すべてが素晴らしい経験でした。そして、個展開催もきっかけの一つとなって、夢だったF1撮影をかなえることができました。

大木雄介写真展「熊野×くまの×KUMANO」

2021年11月19日(金)–12月2日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3

大木雄介氏はムービーカメラマンとして、コマーシャル撮影を中心に活躍しています。初の個展となった本展は、三重県熊野市にある奥さまのご実家への帰省がテーマ。大木氏は、今回の作品を制作したきっかけについて、「一瞬で過ぎ去る子どもたちの成長を見逃さないように、幼い頃の記録を形として残しておきたいという思いがあった」と語っています。

生後6カ月のご長男を囲む幸せそうな親族や、熊野の自然豊かな風景、弟が生まれてお姉さんになったご長女の成長が優しいまなざしで描き出され、「今しかない」幸せな時間を切り取った、大木氏ならではのストーリー性の高い写真展となりました。

家族愛にあふれ、一瞬一瞬に大切に向き合った大木氏の作品を来館者は感じ入った様子で鑑賞していました。また、インタビュー動画で大木氏が語った撮影のエピソードや作品への思いに対し、視聴者から共感や自身の故郷を懐かしむ声が寄せられました。



展示作品点数

24点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
協力/デザイン：株式会社日本写真企画
プリント制作：プロラボ クリエイト

販売物

大木雄介 ZINE「KUMANO」(自費出版)

来館者数

合計20,789人(14日間)

Web公開動画

大木雄介氏が語るインタビュー動画

「子どもたちと周囲の大人の幸せな時間を形として残したい」



来館者の声

写真からあたたかみを感じた。心にしました。

私にも娘がいるので、親近感を持って見ました。

動画視聴者の声

故郷を思い出して、帰りたくなった。

若い写真家の熱意を感じました。

出展者の声

写真展の準備、開催を通じて、何度も、そして、長い時間自分の写真と向き合う中、見るたびに新しい発見があり、貴重な経験になりました。また、会期中は大先輩の写真家の方に写真の撮影や展示方法について助言していただいたり、初めて会う方に感想をいただいたりしたことが嬉しかったです。

Rieko Honma写真展「白日夢」

2021年12月17日(金)～12月28日(火)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3


富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3
2021年 12月17日(金)～12月28日(火)
午前10時～午後7時
会期中無休(最終日は午後4時まで、入館は終了10分前まで)

Rieko Honma
写真展

夢

富士フィルムフォトサロン若手写真家応援プロジェクト
【写真家たちの新しい物語】

自身が見た夢の描写からインスピレーションを受け、写真を表現手段に、この世界に存在するさまざまな目に見えない境界線を表現し続けているRieko Honma氏。その作品は、伊坂幸太郎著『バイバイ、ブラックバード』新装版(双葉文庫)をはじめ、小説の表紙に多数採用されています。

本展はHonma氏が「夢と現実の境」をテーマとし、女性をモチーフにして、水辺や砂浜、森を舞台にして制作した作品を展示。Honma氏は、カズオ・イシグロの同名小説が原作の映画『わたしを離さないで』(2011年公開)に影響を受け、「ハッピーエンドに書き換えた逃避行の物語として、挿絵を描く感覚で表現した」と語りました。展示は、大小さまざまなサイズのプリントやアクリルボックスの活用、天井から作品をつるすなど、多彩な仕上げ方で構成。Honma氏の頭の中にあるさまざまなイメージを表現しました。

インタビュー記事では撮影のこだわりなどが語られ、「形のないものに写真で形を与えたい」というHonma氏独自の世界観に対する深い理解につながりました。



展示作品点数

33点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
協力/デザイン:株式会社日本写真企画
プリント制作:プロラボ クリエイト

販売物

Rieko Honma ZINE(自費出版)

来館者数

合計9,224人(12日間)

来館者の声

寂しい雰囲気でありながら、やわらかく優しい、
幻想的で素敵な展示でした。

記事閲覧者の声

作品についての理解をより深められる記事でした。実際に展示を見に行けないことがとても残念ですが、いつかこの記事のことを思い出しながらこの目で作品を観たいです。

出展者の声

とても美しいプリントで、また、イメージ通りの額装で作品が仕上がりました。そして、アクリルの立方体を使ったり、天井や床に展示することで、多面的な展示で世界観を演出できて良かったです。多くの方にご来場いただき、皆さまから感想をお聞きしたことで、自分の作品と新たな視点で向き合うことができました。

Web公開記事

Rieko Honma氏へのインタビュー記事



篠田岬輝写真展

「Contrast of Savanna –アフリカ 大草原で輝く生命–」

2022年1月14日(金)–1月27日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2

アフリカや亜南極を中心に、世界各地で野生動物を撮影している篠田岬輝氏。本展では、アフリカのサバンナに生息する、野生動物のありのままの姿を捉えた作品を展示しました。「体感」をテーマにした会場は、動物たちの瞳のクローズアップや、幅5メートルにおよぶパノラマ写真、大判プリントによる作品を織り交ぜて構成。美しく雄大なサバンナの風景や躍動感あふれる動物たちの作品に、来館者から感嘆の声が上がっていました。また、篠田氏は、展示期間中、現地で入手したマサイの衣装に身を包んで在廊。来館者は篠田氏と話したり、記念撮影したりして交流を楽しみました。

篠田氏はサバンナでの撮影について、「今を純粋に生きる野生動物たちと向き合うと、人間も動物であることを思い出させてくれる。思うように撮れないこともあるが、その中でどんな瞬間を見つけて切り取るかが動物撮影の面白さ」と語りました。インタビュー記事・動画では、撮影のエピソードや野生動物の魅力語り、熱意ある姿勢が閲覧者の心を打ちました。

展示作品点数

44点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
デザイン：株式会社インプレス
プリント制作：プロラボ クリエイト

販売物

篠田岬輝 写真集「サバンナに生きる! ライオン家族の物語」(玄光社)

来館者数

合計7,425人(14日間)

来館者の声

素晴らしい作品を拝見して、来て良かったです。色もとても綺麗で、サバンナにいるような気持ちになりました。

一見の価値のある素晴らしい写真でした。巨大なプリントにも圧倒されました。

動画視聴者の声

写真家さんが何を考え、そして何を大事に撮影しているか、について理解が深まった。

出展者の声

会期中、写真愛好家の方だけでなく、一般の方、特に親子連れに多くお越しいただきました。多くの声をお聞きしたことで、作品のテーマへの取り組み方や視点を見つめなおすことができました。また、私や作品に興味を持っていただいた新聞社や出版社からお声がけいただき、取材されることも増えました。



Web公開動画

篠田岬輝氏が語るインタビュー動画

「アフリカの野生動物の魅力語りつくす!」



小関一成写真展

「霧幻の水森もり -Lake Shirakawa-

2022年2月18日(金)–3月3日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2

富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト
「写真家たちの新しい物語」

Tokyo
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2
2022.2.18[金]–3.3[木]
10:00-19:00
(最終日は16:00まで、入館は終了10分前まで)
入館無料

Osaka
富士フィルムフォトサロン 大阪 スペース2
2022.7.1[金]–7.14[木]
10:00-19:00
(最終日は16:00まで、入館は終了10分前まで)

山形県内、2022年夏に開催予定
*写真展は中止・変更させていただく場合がございます。予めご了承ください。

小関一成写真展
霧幻の水森もり
Lake Shirakawa

撮影の舞台は、山形県飯豊町の白川湖。そこでは春の訪れとともに飯豊連峰から雪解け水が流れ込み、1カ月間だけ水没した森(水没林)が現れます。雪解け水で満たされた白川湖の水面は、見る角度によってライトブルーからエメラルドグリーンへとさまざまな色合いに変化します。そして、時折その地域特有の濃い川霧が発生し、木々を幻想的に映し出します。

小関一成氏は、ご実家の写真館の2代目として活躍する一方、山形を中心に東北の自然を撮影しています。本展は、小関氏が7年にわたり撮影した白川湖の水没林をまとめた写真展で、「山と森と川が織りなす世界」「現実と非現実」をテーマに構成。水没林の美しく幻想的な世界を表現しました。インタビュー記事・動画では、水没林を撮影し始めたきっかけや撮影する際のこだわりなどをお話いただきました。

本展をきっかけに水没林を知ったという方も多く、多くの来館者を魅了した写真展となりました。

展示作品点数

51点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
デザイン：株式会社風景写真出版
プリント制作：プロラボ クリエイト

販売物

・小関一成 写真集「霧幻の水森もり」(冬青社) ・ポストカード(1種5枚組)

来館者数

合計8,423人(14日間)

来館者の声

水没林の美しく幻想的な写真を見て、写真家の優しさを感じました。

写真を見て、日々の忙しい気持ちが落ち着きました。

動画視聴者の声

若くして自分が打ち込めるテーマを発見し、深掘りできることに羨望を覚えます! 今後も頑張ってください。

出展者の声

写真展会場の作品の前でとても長い時間を止めて見てくださる方の姿に、写真展を開催できた嬉しさを感じたことは忘れられません。写真展会場に出版や広告業界の方に来ていただき、雑誌掲載や今後の仕事の話に繋がりました。地方で活動が続ける中、自分や自分の作品を知っていただく大きな機会を頂くことができました。



Web公開動画

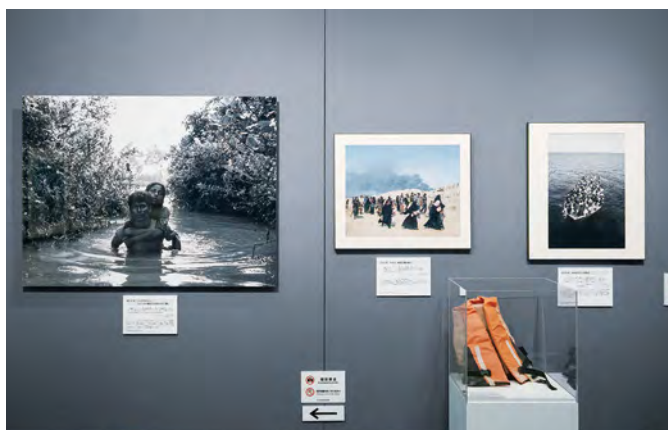
小関一成氏が語るインタビュー動画
「山形県 白川湖 水没林が織りなす幻想的な風景を写す」



国境なき医師団 設立50年「私たちは声を上げる。」

マグナム・フォト連携写真展 一日撃者の証言

2021年10月1日(金)～10月6日(水)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2



国境なき医師団は、紛争地や自然災害の被災地、貧困地域などで危機にひんする人々に独立・中立・公平な立場で緊急医療援助活動を届ける、民間で非営利の医療・人道援助団体です。1971年にフランスで設立し、1992年に日本事務局を発足。現在、約90の国と地域で、医師や看護師をはじめ4万5,000人のスタッフが活動しています(2020年実績)。

2021年で設立50年の節目を迎えた国境なき医師団は、8月より展開した世界の人道危機や、医療・人道援助活動についての理解促進を目的としたキャンペーンの一環として、本展を開催。人道危機の現場を目撃し、捉えてきた著名な写真家集団「マグナム・フォト」の写真により、国境なき医師団の半世紀にわたる活動を振り返りました。

富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1では、パネルでの解説や動画により、国境なき医師団の医療・人道援助活動を紹介しました。スペース2では、「マグナム・フォト」の写真を展示し、人道危機に直面した人々の苦難、そして再び未来を築こうとする人間の強さを伝えました。また、実際に使われたライフジャケット(救命胴衣)なども展示しました。

開催初日の10月1日には、半世紀近く国内外の紛争地や被災地を撮影してきた写真家の大石芳野氏、国境なき医師団日本 会長の久留宮隆氏(当時)によるオンライントークをライブ配信。人道危機を目撃してきたお二人は、現地出会った人々とのエピソードをふまえ、また、彼らのために声を上げ、伝え続けることの大切さを伝えました。

来館者からは、国境なき医師団の活動に深く感銘する声が多く寄せられ、写真の持つ「伝える力」を通じて、日本から遠く離れた地で起こる人道危機を身近に捉えていただく機会となりました。

展示作品点数

32点

クレジット

主催：特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
会場協力：富士フィルム株式会社
デザイン：株式会社丹青
プリント制作：プロラボ クリエイト

来館者数

合計3,796人(6日間)

来館者の声

展示物の記載内容を読み、考えながら写真を見ました。1時間かけてじっくりと見ました。

写真から迫力を感じました。また、色々な立場のスタッフの方々の声が紹介されていたので、医師だけでなく、物資の手配等を担当するさまざまなスタッフがいらっしやることを、初めて知ることができました。

社会的意義のある素晴らしい展示だと思います。

国境なき医師団からのメッセージ

「伝える」という行為において「写真」に力があるため、写真展を通じて人道危機を国際社会に伝えようと考えました。プリントした写真にじっくりと向き合うことで、被写体の心情や撮影者の思いがよりダイレクトに伝わってきました。写真鑑賞に最適なフジフィルム スクエアの空間で作品を展示することで、写真の向こうにいる世界の方とつながるきっかけを作ることができたと思います。

2022年1月14日(金)–2月3日(木)
 富士フィルムフォトサロン東京
 ミニギャラリー・スペース3

日本サッカーの革新を支えた闘いの記録



写真展を訪れたFUJIFILM SUPER CUPの大会アンバサダー中村憲剛氏

富士フィルムビジネスイノベーション株式会社は、1970年より、各種サッカー大会に協賛しています。同社はサッカーを世界の人々と感動を共感し合えるコミュニケーションの一つと位置付け、Jリーグの発足や、「サポーター」という言葉が生まれる前から大会協賛を続け、日本のサッカー発展の歴史を共に歩んできました。

「全国高等学校サッカー選手権大会」には1970年から50年以上協賛している他、「天皇杯 JFA 全日本サッカー選手権大会」や「2002 FIFAワールドカップ™」など、さまざまな大会に協賛してきました。中でも、1994年から28年間にわたり協賛してきた「FUJI XEROX SUPER CUP」は、同一企業の協賛で最も長く開催されたサッカースーパーカップ大会として、ギネス世界記録™に認定されました。2022年は大会名を「FUJIFILM SUPER CUP」へ一新し、サッカー協賛の新たな一歩を踏み出しました。

本展では、「全国高等学校サッカー選手権大会」と「FUJI XEROX SUPER CUP」等の歴史的な名シーンを選び、迫力ある写真で振り返りました。62点の展示写真のうち、約半数を占める「全国高等学校サッカー選手権大会」の写真は、同社のハイエンドプロ市場向けのプロダクションカラープリンター「Revoria Press™ PC1120」でプリント。写真画像を自動で判断し、明るさや色味を補正する機能を活用し、一点一点最適な出力品質に仕上げ、展示しました。また、スピーディーなオンデマンド出力の性能を生かし、写真展開催4日前に行われた、決勝戦の写真もプリントして会場に並べました。

写真展示の他にも、中村俊輔などの名選手が登場する、過去の広告作品の紹介動画、「XEROX SUPER SOCCER」の歴代プログラム、新旧「SUPER CUP」の優勝トロフィーや記念ボールを展示。優勝トロフィーと記念ボールの展示には撮影コーナーを設け、来館者に記念撮影を楽しんでいただきました。

展示作品点数

62点

クレジット

主催：富士フィルムビジネスイノベーション株式会社
 後援：港区教育委員会
 協力：公益社団法人日本プロサッカーリーグ、
 全国高等学校体育連盟サッカー専門部記録部／高校サッカー一年鑑
 デザイン：富士フィルムビジネスエキスパート株式会社
 プリント制作：プロラボ クリエイト、
 富士フィルムビジネスイノベーション株式会社

来館者数

合計10,925人(21日間)

来館者の声

写真を見て、自分の青春を取り戻したように感じました。

懐かしい記録をたくさん見ることができて良かった。トロフィーの撮影コーナーも楽しめた。

迫力のある写真がたくさんあったので、ゆっくり楽しみながら見ました。

18 てのひらで集める、しあわせ展 ～ハーフサイズプリントで、毎日をもっと楽しく～

2021年6月1日(火)～7月1日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



インスタグラマーやカメラマンが富士フィルムのプリントサービス「ハーフサイズプリント」を使い、さまざまな楽しみ方を紹介しました。「ハーフサイズプリント」とは、てのひらサイズの小さくて高画質な写真プリントです。日常の写真や旅行の思い出をすてきな一冊にまとめたり、結婚式のウェルカムスペースのアレンジ方法を紹介したりするなど、アイデア満載の展示となりました。

また、会期中の土日限定で、来館者の写真をその場で「ハーフサイズプリント」にしてプレゼントし体験してもらいました。

出展写真家

もろんのん、増田彩来/sara

展示作品点数

10点

併催イベント

「ハーフサイズプリント」にしてプレゼント
※無料、3枚/人まで、会期中土日限定
10:30～18:00

来館者数

合計22,902人(31日間)

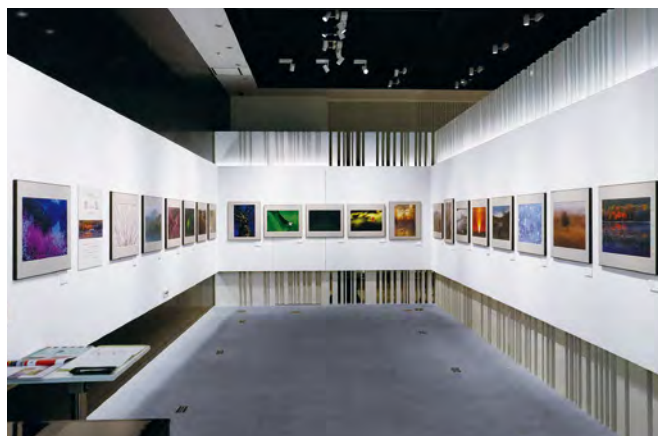
クレジット

主催：富士フィルム株式会社

プリント制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

19 XFP写真展「感じて 魅せる色 -XF Stories」

第一期：2021年9月3日(金)～9月16日(木)
第二期：2021年11月5日(金)～11月18日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



XFP(X FUKUJI Photographers Party)は、富士フィルムのミラーレスデジタルカメラ「Xシリーズ」で美しい風景を撮影する有志の集まりです。40名の写真家たちによる、日本の繊細な季節の変化を捉えた作品を二期に分けて展示しました。

40名の写真家たちが、それぞれにイメージする「感じて魅せる色」を「Xシリーズ」ならではのフィルムシミュレーション機能や色の再現性、豊かな階調表現を存分に活かし表現しました。そして、高品質な銀写真プリントで仕上げた表情豊かな作品を来館者にご堪能いただきました。

出展写真家

第一期：

東博章、石川真哉、磯野浩孝、木田宏、草刈幹夫、倉家eto修司、斉藤のりこ、
阪口幸雄、櫻井勝美、佐藤裕香、高谷真紀、戸張真、中井憲吾、西山浩、原澤康隆、
本田雄一、前山和敏、宮下正之、義川修一、吉崎喜寿

第二期：

新井剛、飯田恒弘、緒方桂子、奥村克己、勝山正人、加藤優治、小坂富男、
高井栄次郎、高原時子、戸張伸子、長尾恵美子、中久保健、奈良美弥子、西山恵、
藤坂喜広、古澤久良、宮本寛、山口かつ美、横澤千晶、吉井康哲

展示作品点数

第一期：20点 第二期：20点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社

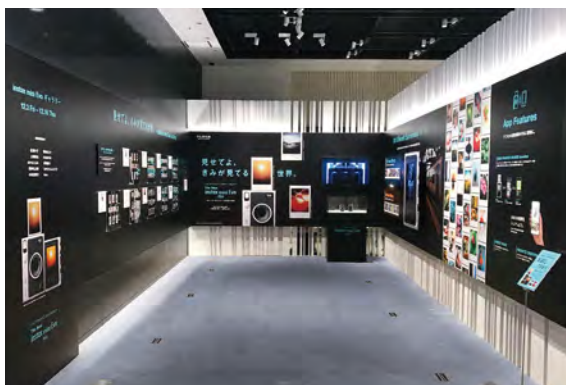
プリント制作：プロラボ クリエイト

来館者数

第一期：合計10,800人(14日間) 第二期：合計10,702人(14日間)

20 見せてよ、きみがしてる世界。 “instax mini Evo” Gallery

2021年12月3日(金)–12月16日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



10種類のレンズエフェクトと10種類のフィルムエフェクトを組み合わせることで、あらゆる情景を思いのままに表現できる富士フィルムのインスタントカメラ“チェキ”「instax mini Evo(インスタックス ミニ エヴォ)」。演技・音楽・アート・写真など、さまざまな分野で活躍する10名のクリエイターが「instax mini Evo」を使い、「わたしがしてる世界」を表現しました。アイデアを刺激し、写真表現の可能性を広げる個性豊かな写真展となりました。

出展者

広瀬すず、上原晴也、おかもとえみ、奇妙礼太郎、小林真梨子、柴崎まどか、CHINPAN、長塚健斗、なかむらしんたろう、haru。

展示作品点数

82点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
プリント制作：
富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

来館者数

合計27,115人(14日間)

21 久野鎮の創作写真展 「あなたは夢中になれることがありますか!」

2022年2月4日(金)–3月3日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



デジタルカメラに搭載されている機能を活用し、カメラのモニター上で複数の写真を合成・加工して作品を作る「カメラ内創作写真」に取り組んでいる久野鎮氏。

富士フィルムのミラーレスデジタルカメラ「Xシリーズ」「GFXシリーズ」を使い、自由な発想で創作した作品を展示しました。また、久野氏が代表を務める、心象創作写真協会の会員による作品も紹介。個性と彩りにあふれる写真展となりました。

展示作品点数

47点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
プリント制作：プロラボ クリエイト

来館者数

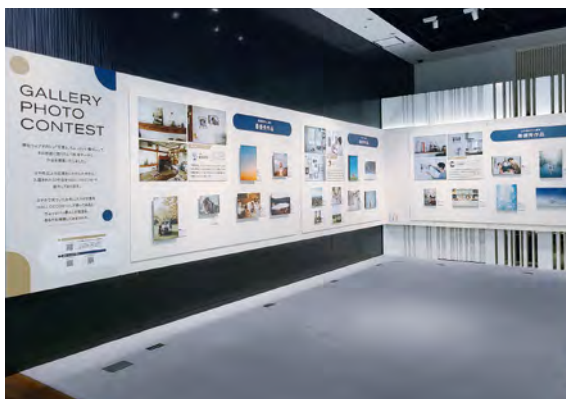
合計15,702人(28日間)

販売物

- ・久野鎮「あなたの写真は一日で変わる」(株式会社日本写真企画)
- ・久野鎮「あなたの写真はもっと個人的に変わる」(株式会社日本写真企画)
- ・『フォトコン別冊 誰も教えてくれない撮影術』(株式会社日本写真企画)
- ・久野鎮「心象創幻写術集」(株式会社日本写真企画)
- ・「フォトコン2022年2月号」(株式会社日本写真企画)

22 「GALLERY PHOTO CONTEST #お部屋に飾りたい1枚」

2022年3月4日(金)–3月31日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



富士フィルムが運営するWebマガジン「写真と、ちょっといい暮らし。」の公式インスタグラムで、2022年1月14~31日の期間、「#お部屋に飾りたい1枚」をテーマに作品を募集したところ、6,000件以上の応募をいただきました。その中から、優秀作品として入選した32点を写真パネル「WALL DECOR(ウォールデコ)」に仕上げて展示しました。また、審査員の方々が実際にご自宅に飾られている作品8点も紹介。写真を「WALL DECOR」にして飾る楽しさを伝える写真展となりました。

審査員

山本陽介、砺波周平、MIKI*

展示作品点数

32点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
プリント制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

来館者数

合計18,581人(28日間)


写真家がカメラを持って旅に出た

北井一夫「村へ、そして村へ」

2021年4月1日(木)～7月19日(月)*1
写真歴史博物館

フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 企画写真展

写真家がカメラを持って旅に出た



北井一夫「村へ、そして村へ」

2021年4/1(木)～6/30(水)
10時～19時(最終日は18時まで、入館は終了10分前まで) 会期中無休・入館無料

写真展・イベントは必ず事前申込。変更が効いた場合の都合がございます。予めご了承ください。

主催：富士フィルム株式会社 後援：港区教育委員会 協力：株式会社朝日新聞出版 企画：フォトクラシック

FUJIFILM SQUARE

北井一夫(1944-)は、戦後日本を代表する写真家です。人の生活にテーマを置き、時代を的確に捉えた作品は国内外で高く評価され、現在も国際的に注目を集めています。

〈村へ〉は、『アサヒカメラ』で1974年から1975年まで、全24回にわたって連載された作品です。高度経済成長の1970年代、都市への集中化に逆行するように「村」という対象を選び、ありふれた日常を写した新しい視点は大きな話題を呼びました。この連載が評価され、北井は、第1回木村伊兵衛写真賞を受賞。その続編となる〈そして村へ〉は、同誌で1976年から1977年まで連載されました。1976年には同誌増刊として写真集『村へ』、1980年には一連のシリーズを再編集した写真集『村へ』(淡交社)を発表。同作は、その後も編集を変えながら写真集や写真展で繰り返し発表され、現在まで途切れることなく注目されてきた稀有な作品です。

本展は、〈村へ〉と〈そして村へ〉から30点を精選し、貴重なヴィンテージプリントで展示。撮影当時、時代の意識と真逆にあった「村」という対象は、時を経て、その時代を象徴するものとなりました。写真展会場では感じ入るように作品を鑑賞する来館者の姿が多くみられ、「心があたたかくなる」等の声が寄せられました。そして、また、Webサイトで公開した作品制作の背景を語ったインタビュー記事では、作品への理解を深めていただくとともに、写真家・北井一夫の魅力を伝えました。

デジタル写真やSNSが社会に浸透し、写真の撮り方や見方、表現方法が大きく変わった今、本展は、記録するという写真の原点、写真家の視点を表現するという写真の本質を強く訴えかける機会となりました。



展示作品点数

30点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
後援：港区教育委員会
協力：株式会社朝日新聞出版
企画：フォトクラシック
デザイン：脇野直人

販売物

- ・北井一夫『過激派の時代』(平凡社)
- ・北井一夫『写真家の記憶の抽斗』(日本カメラ社)
- ・北井一夫『写真家の記憶の抽斗』(英語版、Zen Foto Gallery)
- ・北井一夫『道』(のら社)
- ・DVD『過激派』(有限会社近未来考古学研究)

主要メディア掲載

新聞：日本経済新聞夕刊(東京、4月16日) / ウェブサイト：朝日新聞デジタル&M、@DIME、iza、産経ニュース、JBpress、東洋経済オンライン、PRESIDENT Online、読売新聞オンライン、MdN Design Interactive、グノシー、livedoorニュース、LINE NEWS

来館者数

合計52,861人(73日間*2)

- *1 2021年4月25日～5月31日(37日間)は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から臨時休館
- *2 臨時休館した37日間を除いた日数

Web公開記事

北井一夫 氏へのインタビュー記事
「写真に撮るべきもの ― 〈村へ〉の時代と作品を語る」



来館者の声

自分がまだ生まれていない時代の写真なのに、郷愁を誘った。懐かしい気持ちになった。

理由をはっきり言えないのだが、写真に魅力を感じる。そして、見ていると心が温かくなる。

素朴な感じがとても良かった。

大竹省二

「カラー写真が夢見た時代 COLOR DREAMS」

2021年7月20日(火)–10月19日(火)
写真歴史博物館


大竹省二 カラー写真が夢見た時代

フジフィルムスクエア 写真歴史博物館 企画写真展

2021.7.20[火]–10.19[火]
10:00–19:00 会期中無休 入館無料
(最終日は16:00まで、入館は終了10分前まで)
※写真展・イベントは予約を要する。変更または中止の場合がございます。詳細サイトをご覧ください。
主催：富士フィルム株式会社 協力：大竹省二事務所 後援：港区教育委員会 企画：コンタクト

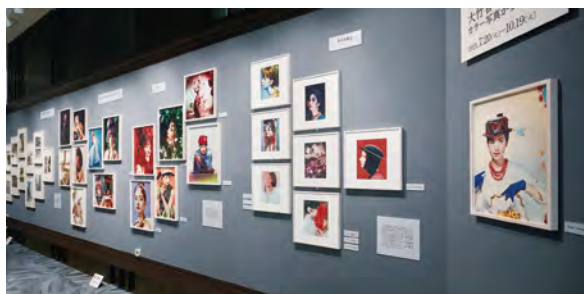
FUJIFILM SQUARE

戦後の日本写真史において大きな足跡を残した大竹省二(1922–2015)は、GHQ(連合国軍総司令部)広報部の嘱託カメラマンとしてキャリアをスタートさせました。カラーフィルムを自由に使える幸運に恵まれた大竹は、カラー写真の鮮烈さに大いなる可能性を見だし、その本質を先駆けて追究。グラフ雑誌や広告メディアを舞台に華々しいキャリアを築き、中でも女性のポートレートは彼の代名詞になりました。

大竹をはじめ当時の写真家たちが活躍した背景には、日本の写真関連メーカーによる目覚ましい技術発展がありました。日本でいち早くカラーフィルムの開発に取り組んだ富士フィルムは、米国のカラーフィルムにも熟知していた大竹に、製品開発の初期段階から協力を仰ぎました。さらに、富士フォトサロン(現・富士フィルムフォトサロン)では、1960年に「大竹省二カラー近作展」、1967年に「フジカラーによる大竹省二写真展《COLOR LADIES》」と、カラー写真をテーマにした展覧会も開催しています。

本展は、大竹省二事務所のアーカイブ構築作業の中から再発見された富士フォトサロンでの展示作品をはじめ、雑誌の表紙やグラビアに発表された1960年代のカラー写真など35点を最新の技術でプリントに再現して展示。日本のカラー写真史における大竹の業績に迫るとともに、モノクロが主流だった時代に色彩あふれるファッションカラー写真が、いかに当時の人々に豊かな暮らしへの夢と希望を抱かせたかを感じていただける写真展となりました。

若い女性の来館も多く、時代を超えた魅力を放つ女性ポートレートとの出会いを楽しむ声が寄せられました。



週刊現代2021年7月24日号

展示作品点数

35点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
後援：港区教育委員会
協力：大竹省二事務所
企画：コンタクト
デザイン：長尾敦子
プリント制作：プロラボ クリエイト

主要メディア掲載

雑誌：週刊現代(7月24日号)、25ans(10月号)／ウェブサイト：antenna、Yahoo!ニュース、Infoseekニュース、gooニュース、グノシー、スポニチ Sponichi Annex、ニフティニュース、BIGLOBEニュース、livedoorニュース、LINE NEWS

来館者数

合計66,480人(92日間)

来館者の声

素敵な時代のおしゃれな写真。今見てもとても新鮮でした。

普段写真展を見る機会がないのですが、古い時代に撮影された写真を見ることができて、写真の世界を知る良い機会となりました。

作家を振り返る作品展はとても貴重だと思います。今後も継続してほしい。

フジフィルム・フォトコレクション特別展

「師弟、それぞれの写真表現」

2021年10月20日(水) - 12月28日(火)
写真歴史博物館

フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 企画写真展

**フジフィルム・
フォトコレクション
特別展**

桑原甲子雄 と 荒木経惟

篠山紀信 と 十文字美信

**師弟、
それぞれの
写真表現**

大辻清司 と 牛腸茂雄

2021年 10/20(水) - 12/28(火)

会期中無休・入館無料 10時-19時

主催/富士フィルム株式会社
後援/港区教育委員会

FUJIFILM SQUARE

「フジフィルム・フォトコレクション」は2014年、富士フィルムの創立80周年を機に「写真文化を守る」ことを基本理念として創設された写真コレクションです。幕末・明治から現代に至る、日本を代表する写真家101人の作品を1点ずつ収集し、そのどれもが歴史的価値の高い作品です。日本の写真史と写真界の発展の軌跡をご覧いただける稀有なコレクションとして、これまでに全国の美術館や博物館など、延べ19回*の巡回展示を重ね、多くのお客さまにお楽しみいただいています。

本展は、「フジフィルム・フォトコレクション」から師匠と弟子、写真家と助手、教師と教え子といった関係にあった写真家たちの作品を特集し、対比することで、それぞれの写真表現を読み解く試みとしました。1960年代に桑沢デザイン研究所で写真の指導をしていた大辻清司(1923-2001)と教え子の牛腸茂雄(1946-1983)、篠山紀信(1940-)と彼のアシスタントとして1960年代に経験を積んだ十文字美信(1947-)、さらに名編集者として知られていた桑原甲子雄(1913-2007)と彼の名作を見いだした荒木経惟



師弟の作品を対比して展示

(1940-)との直接の師弟を超えた関係など、知られざる写真家同士の関わりを紹介しながら、28作家28点の作品を展示しました。

名作を鑑賞しながら写真家や作品にまつわる背景を深く理解できる展示内容は、来館者から「見応えがある」とご好評をいただきました。

弟子は師匠の写真表現から何を学んだのか、そして、そこからどのような写真表現に行き着いたのか。師弟それぞれの作品を観察し、比較することで、写真表現とは何かということのヒントを探る機会となりました。

*2022年3月現在

出展写真家

岡田紅陽、白旗史朗/塩谷定好、植田正治/木村伊兵衛、田沼武能/田淵行男、水越 武/桑原甲子雄、荒木経惟/林 忠彦、清家富夫/岩宮武二、森山大道/杵島 隆、野町和嘉/大辻清司、牛腸茂雄/田中光常、星野道夫/細江英公、普後 均/篠山紀信、十文字美信/深瀬昌久、瀬戸正人/有田泰而、上田義彦

展示作品点数

28点

クレジット

主催/富士フィルム株式会社 後援/港区教育委員会 企画/フォトクラシック
デザイン/脇野直人

主要メディア掲載

ウェブサイト:@DIME、iza、Infoseekニュース、ウレぴあ総研、エキサイトニュース、eltha、ORICON NEWS、CREA WEB、産経ニュース、ジオルダンニュース!、東洋経済オンライン、NewsCafe、ハピママ*、BIGLOBEニュース、PRESIDENT Online、読売新聞オンライン、LINE NEWS、antenna

販売物

『フジフィルム・フォトコレクション展覧会図録』(コンパクト版/ハードカバー)

来館者数

合計78,906人(70日間)



来館者の声

何回か見た写真ですが、師弟それぞれの代表作として並べて鑑賞すると、改めて発見することもあり、面白い。

師匠も弟子も個性があるのだが、師匠と弟子の写真はどこか似ていると思った。弟子が師匠に受けた影響を感じた。

企画コンセプト、展示作品、コメントやキャプション、フライヤーどれもとても良いと思いました。

写真家 水谷章人 作品展「甦る白銀の閃光」

2022年1月4日(火)–3月30日(水)
写真歴史博物館

フジフィルム スクエア
写真歴史博物館 企画写真展

写真家 水谷章人 作品展 甦る白銀の閃光



2022年
1月4日
(火)
—
3月30日
(水)

10時–19時
(最終日は16時まで、
入館は終了10分前まで)

会期中無休
入館無料

※写真展は、年中無休です。変更する場合は、写真歴史博物館のホームページ、電話でご確認ください。

主催：富士フィルム株式会社
後援：港区教育委員会

AKITO MIZUTANI FUJIFILM SQUARE

展示作品点数

20点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
後援：港区教育委員会
企画：フォトクラシック
デザイン：脇野直人
プリント制作：写真弘社

販売物

水谷章人『フランス・ラウター写真集—追憶の一枚—』(株式会社シャレー志賀)

主要メディア掲載

ウェブサイト：@DIME、iza、ウレぴあ総研、エキサイトニュース、eltha、ORICON NEWS、CREA WEB、産経ニュース、JBpress、東洋経済オンライン、NewsCafe、ハピママ*、PRESIDENT Online、読売新聞オンライン

来館者数

合計50,568人(86日間)

水谷章人氏(1940-)は、半世紀以上にわたるスポーツ写真を中心に活躍し、現在も第一線で作品を発表し続けている写真家です。1960年代、山岳写真家を目指す過程でスキーと出会った水谷氏は、スキー写真の個展「限界に挑むスキー」(富士フォトサロン、1970年)で初めて作品を発表。従来のスキー写真とは異なる、粗粒子のスキーヤーのクローズアップ写真や、意外性のあるダイナミックな構図の作品によって瞬刻間に知名度を上げ、スキー写真の分野に新たな領域を開拓してきました。

1960年代後半から80年代を中心に撮影した〈白銀の閃光〉シリーズは、水谷氏の原点ともいえる作品群です。雄大な自然の中で躍る世界屈指のスキーヤー、真っさらな白銀の世界に現れるシュプールの造形美と圧倒的な構図力。優れた美意識と研ぎ澄まされた視覚、鍛錬された身体感覚で捉えられた写真は、水谷氏にしか表現しえない唯一無二の世界として、スポーツ写真やスキー写真といった枠を超えて国内外で高く評価され、日本の写真史に刻まれるべき傑作の一つとして、近年再び脚光を浴びています。

本展は、〈白銀の閃光〉シリーズから20点を精選し、新たに制作したゼラチン・シルバー・プリントで展示しました。黒と白の豊かな階調で表現された美しく躍動感あふれる作品の数々は、瞬間を記録するという写真の「原点」と、写真家の視点を表現するという写真の「本質」を示すと同時に、今日まで続く水谷氏の仕事に一貫する独自の美学を明らかにしました。そして、誰もが手軽に写真を撮れる現代において、普遍的な写真表現の価値を今一度、提示しました。

年明けに始まり、スキーのシーズンに開催された本展。来館者は迫力ある作品群に引き込まれるように魅入っていました。そして、度々ご在廊くださった水谷氏と来館者が写真について熱く語り合う場面が多くみられる写真展となりました。



水谷章人氏

来館者の声

解説を読んで綿密に計算されて撮影された写真であることを初めて知った。その背景を知って改めて見ると、さらに面白かった。

季節にぴったりの展示で、楽しめました。スキー選手が滑っている音まで蘇るようでした。

モノクロの写真から陰影の美しさや迫力を感じました。

写真展開催リスト

■富士フィルムフォトサロン 東京・ミニギャラリー／開催写真展 計75本(当社が主催・共催・協力する企画展29本、公募展46本)

	開催期間	会場			
		スペース1	スペース2	スペース3	ミニギャラリー
第72回 中日写真展・東京展	2021年4月2日(金)～2021年4月8日(木)	●			
宮内勝廣写真展「祇園舞妓 日々のつれづれ」	2021年4月2日(金)～2021年4月8日(木)		●		
第18回 港区観光フォトコンテスト2020	2021年4月2日(金)～2021年4月22日(木)				●
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 名雪晶子写真展「コン・アニメー魂を込めて、生き生きと」	2021年4月2日(金)～2021年4月15日(木)			●	
第7回 日本風景写真協会選抜展「四季のいろ」	2021年4月9日(金)～2021年4月15日(木)	●	●		
第29回 林忠彦賞受賞記念写真展 笠木絵津子「私の知らない母」	2021年4月16日(金)～2021年4月22日(木)	●			
島内治彦写真展「姫路城 ～世界文化遺産・国宝～」	2021年4月16日(金)～2021年4月22日(木)		●		
2020日本写真協会賞受賞作品展	2021年6月1日(火)～2021年6月3日(木)	●			
唐木 徹 写真展「Rail on Kyushu」～九州の四季の彩りを巡る旅へ～	2021年6月1日(火)～2021年6月3日(木)		●		
ロイヤルリゾート那須「四季の那須フォトコンテスト」写真展	2021年6月1日(火)～2021年6月10日(木)				●
富士フィルム 企画写真展 てのひらで集める、しあわせ展 ～ハーフサイズプリントで、毎日をもっと楽しく～	2021年6月1日(火)～2021年7月1日(木)			●	
日本建築写真家協会展「光と空間」建築の美 Part14「色・いろ」	2021年6月4日(金)～2021年6月10日(木)	●			
細谷克子写真展 海の宝石「ホヤ」という世界	2021年6月4日(金)～2021年6月10日(木)		●		
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 立木義浩写真展「遍照(へんじょう)」～世界遺産 東寺～	2021年6月11日(金)～2021年6月30日(水)	●	●		●
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 「魅力発見! 日本の世界文化遺産」～写真が語る日本の歴史～	2021年7月1日(木)～2021年7月20日(火)	●	●		●
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 夏井 瞬 写真展「Waves」	2021年7月2日(金)～2021年7月15日(木)			●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 富士フィルム製品の変遷 ～デジタルカメラとインスタント写真編～	2021年7月16日(金)～2021年7月20日(火)			●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 「日本人の魂・富嶽今昔(こんじゃく)三十六景」～北斎と4人の巨匠たち～	2021年7月21日(水)～2021年8月19日(木)	●	●		●
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 織作峰子写真展「Homage to Hokusai (オマージュトゥ ホクサイ)」～悠久の時を旅して～	2021年7月21日(水)～2021年8月19日(木)			●	
[2021全日本読売写真クラブ展]	2021年8月20日(金)～2021年8月26日(木)	●	●		
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト【写真家たちの新しい物語】 カピゴン松島写真展「カピバラ パンタナール湿原」	2021年8月20日(金)～2021年9月2日(木)			●	
第14回 山中湖フォトグランプリ写真展	2021年8月20日(金)～2021年9月9日(木)				●
全日写連フォトフェスティバル2021 第53回 カラーフェア／第20回 全日本モノクロ写真展／第13回 人間大好き!フォトコンテスト	2021年8月27日(金)～2021年9月2日(木)	●	●		
MPG写真展2021「バイクのある風景」	2021年9月3日(金)～2021年9月9日(木)	●			
日本航空写真家協会写真展「21st SKY GRAFFITI」	2021年9月3日(金)～2021年9月9日(木)		●		
富士フィルム 企画写真展 XFP写真展「感じて 魅せる色-XF Stories」第一期	2021年9月3日(金)～2021年9月16日(木)			●	
「丸の内写真倶楽部展」	2021年9月10日(金)～2021年9月16日(木)	●	●		
「富士フィルムフォトコンテスト」歴代グランプリ作品展	2021年9月10日(金)～2021年10月6日(水)				●
原澤康隆写真展「季の彩 赤城山」	2021年9月17日(金)～2021年9月23日(木・祝)	●			
北島良夫写真展「アメリカの大地と星空のデュエット」	2021年9月17日(金)～2021年9月23日(木・祝)		●		
第13回 六本木フォトコンテスト写真展	2021年9月17日(金)～2021年10月6日(水)			●	
川井靖元写真展「岳・信仰・民」	2021年9月24日(金)～2021年9月30日(木)	●			
ビスマルク タナカ 写真展「Distance -旅の記憶-」	2021年9月24日(金)～2021年9月30日(木)		●		
国境なき医師団 設立50年「私たちは声を上げる。」マグナム・フォト連携写真展-目撃者の証言	2021年10月1日(金)～2021年10月6日(水)	●	●		
富士フィルム 企画写真展 "PHOTO IS"想いをつなぐ。あなたが主役の写真展 2021	2021年10月8日(金)～2021年10月13日(水)	●	●	●	●
2021 富士フィルム営業写真コンテスト 入賞作品発表展	2021年10月15日(金)～2021年10月21日(木)	●			
Group18%GRAY 第2回東京写真展「ひかりと遊ぶ」	2021年10月15日(金)～2021年10月21日(木)		●		
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 石井誠人写真展「alive photo -生きる-」	2021年10月15日(金)～2021年11月4日(木)			●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 大橋和典 Cat's写真館 ～自慢の猫ちゃんは、WALL DECORで飾る～	2021年10月15日(金)～2021年11月4日(木)				●
渡辺 楷 写真展「ARCHETYPE \ Yamanote Line 30 Stations 2020」都市の「コピー&ペースト」と「アーキタイプ」	2021年10月22日(金)～2021年10月28日(木)	●			
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 Jay Hirano 写真展「Lockdown -Recovery, Rebuild, Restart-」	2021年10月22日(金)～2021年11月4日(木)		●		

※緑字は当社が主催・共催・協力する企画展



「日本人の魂・富嶽今昔三十六景」より



「日本人の魂・富嶽今昔三十六景」より



立木義浩写真展「遍照」より



立木義浩写真展「遍照」より



「魅力発見! 日本の世界文化遺産」より



「魅力発見! 日本の世界文化遺産」より

写真展開催リスト

	開催期間	会場			
		スペース1	スペース2	スペース3	ミニギャラリー
第40回 ハッセルブラッド フォトクラブ写真展	2021年10月29日(金)～2021年11月4日(木)	●			
富士フィルム 企画写真展 XFP写真展「感じて 魅せる色-XF Stories」第二期	2021年11月5日(金)～2021年11月18日(木)			●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 「フォト・ジャーナリスト W. ユージン・スミスが見たもの - 写真は真実を語る」	2021年11月5日(金)～2021年11月25日(木)	●	●		●
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 大木雄介写真展「熊野×くまの×KUMANO」	2021年11月19日(金)～2021年12月2日(木)			●	
東京ディズニーリゾート®・フォトグラフィープロジェクト「イマジニング・ザ・マジック」写真展 (撮影 蛸川実花)	2021年11月26日(金)～2021年12月16日(木)	●	●		●
富士フィルム 企画写真展 見せてよ、きみが見てる世界。"instax mini Evo" Gallery	2021年12月3日(金)～2021年12月16日(木)			●	
フォトグループいぶき写真展「2021四季のいぶき」	2021年12月17日(金)～2021年12月28日(火)	●			
2021年 日本雑誌写真記者会写真展	2021年12月17日(金)～2021年12月28日(火)		●		
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 Rieko Honma写真展「白日夢」	2021年12月17日(金)～2021年12月28日(火)			●	
丸の内写真教室作品展&FUJIFILM Xシリーズ作品展	2021年12月17日(金)～2021年12月28日(火)				●
【風景写真祭2022】第17回 美しい風景写真100人展	2022年1月4日(火)～2022年1月13日(木)	●	●		●
【風景写真祭2022】風景写真 X tension展	2022年1月4日(火)～2022年1月13日(木)			●	
吉良俊一写真展「万化 -江川海岸・久津間海岸の七彩-」	2022年1月14日(金)～2022年1月20日(木)	●			
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 篠田岬輝写真展「Contrast of Savanna -アフリカ 大草原で輝く生命-」	2022年1月14日(金)～2022年1月27日(木)		●		
富士フィルムビジネスインベーション 企画写真展 日本サッカーの革新を支えた闘いの記録	2022年1月14日(金)～2022年2月3日(木)			●	●
2021年 第16回「名取洋之助写真賞」受賞作品 写真展	2022年1月21日(金)～2022年1月27日(木)	●			
山岳写真展「悠久の峰」2022	2022年1月28日(金)～2022年2月3日(木)	●			
山岸仁史写真展「ICE FORMS -氷の不思議-」	2022年1月28日(金)～2022年2月3日(木)		●		
栄馬智太郎写真展「霊峰御嶽」ONTAKE	2022年2月4日(金)～2022年2月10日(木)	●			
奥田達哉写真展「絶滅危惧種～東南アジアの霊長類」	2022年2月4日(金)～2022年2月10日(木)		●		
富士フィルム 企画写真展 久野鎮の創作写真展「あなたは夢中になれることがありますか!」	2022年2月4日(金)～2022年3月3日(木)			●	
「麻布未来写真館」パネル展 ～次世代へつなぐ麻布の記憶～	2022年2月4日(金)～2022年3月3日(木)				●
「第32回 NHK学園 生涯学習写真展」	2022年2月11日(金・祝)～2022年2月17日(木)	●	●		
原楨春夫 一 写真展「天城で眼福」	2022年2月18日(金)～2022年2月24日(木)	●			
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 小関一成写真展「霧幻の水森(もり) -Lake Shirakawa-」	2022年2月18日(金)～2022年3月3日(木)		●		
第43回 よみうり写真大賞 入賞作品発表展	2022年2月25日(金)～2022年3月3日(木)	●			
フォト寺子屋「一の会」第9回写真展「しあわせの風景」	2022年3月4日(金)～2022年3月10日(木)	●			
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 昭和から令和まで高座撮影半世紀。落語写真家 横井洋司 写真展「断(はなし)を写す」	2022年3月4日(金)～2022年3月17日(木)		●		
富士フィルム 企画写真展 「GALLERY PHOTO CONTEST #お部屋に飾りたい1枚」	2022年3月4日(金)～2022年3月31日(木)			●	
「第14回 六本木フォトコンテスト写真展」	2022年3月4日(金)～2022年3月31日(木)				●
田原芳明写真展「一会の記憶 -平成の原風景-」	2022年3月11日(金)～2022年3月17日(木)	●			
鳥里烏沙写真展「世界自然遺産 三江併流 地域に生きる」	2022年3月18日(金)～2022年3月24日(木)	●			
松山和照写真展「夜猫」	2022年3月18日(金)～2022年3月24日(木)		●		
一般社団法人 日本自然科学写真協会 第42回 SSP展「自然を楽しむ科学の眼 2021-2022」	2022年3月25日(金)～2022年3月31日(木)	●	●		

■写真歴史博物館／開催写真展 計4本

FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 写真家がカメラを持って旅に出た 北井一夫「村へ、そして村へ」	2021年4月1日(木)～2021年7月19日(月)*	写真歴史博物館
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 大竹省二「カラー写真が夢見た時代 COLOR DREAMS」	2021年7月20日(火)～2021年10月19日(火)	写真歴史博物館
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 フジフィルム・フォトコレクション特別展「師弟、それぞれの写真表現」	2021年10月20日(水)～2021年12月28日(火)	写真歴史博物館
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 写真家 水谷章人 作品展「甦る白銀の閃光」	2022年1月4日(火)～2022年3月30日(水)	写真歴史博物館

*緑字は当社が主催・共催・協力する企画展

* 2021年4月25日～5月31日は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から臨時休館



「フォト・ジャーナリスト W. ユージン・スミスが見たもの - 写真は真実を語る」より



「フォト・ジャーナリスト W. ユージン・スミスが見たもの - 写真は真実を語る」より



篠田岬輝写真展「Contrast of Savanna -アフリカ 大草原で輝く生命-」より



横井洋司氏(右)と一般社団法人落語協会会長柳亭市馬師匠(左) (落語写真家 横井洋司 写真展「断を写す」より)



落語写真家 横井洋司 写真展「断を写す」より



篠田岬輝写真展「Contrast of Savanna -アフリカ 大草原で輝く生命-」より

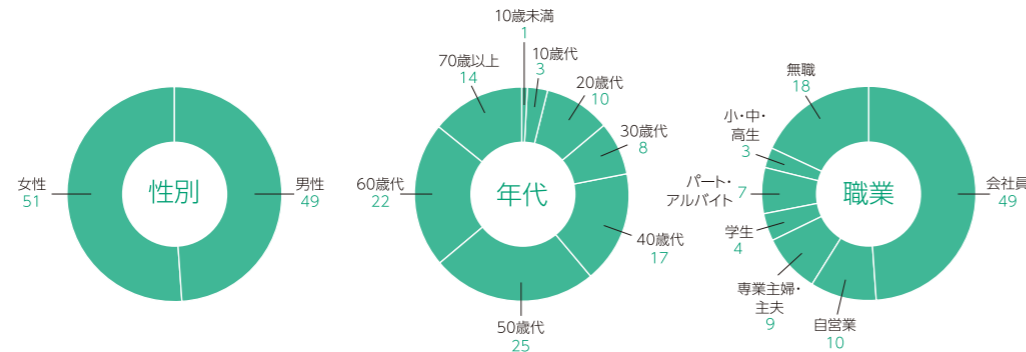
フジフィルム スクエアは2021年度、自らが主催・共催・協力する企画展33本、プロの写真家やアマチュアの写真愛好家の方から作品を募集する公募展46本、合計79本の写真展を入館無料で開催し、約25万人の方にご来館いただきました。Webサイトでは昨年度から制作を開始した写真展出展者へのインタビュー動画に加え、当社コンシェルジュによる「写真歴史博物館の紹介動画」という新ジャンルも含め動画11本を公開。総再生回数は22,572回を数えました*。また、施設や写真について気軽に読んでいただくWebマガジンも新たに掲載を開始。「動画がわかりやすいガイドになる」「手軽に楽しめる」等、視聴者からご好評をいただきました。さらに従業員向けポータルサイトでも写真展案内を10回行いました。

*2022年3月31日現在。広告配信による再生は含まない。

来館実績

来館者数
250,161人
※臨時休館日37日および年末年始を除く稼働日数322日の来館者

来館者属性
※自社アンケート調査による。(回答人数6,087人、グラフの単位は%)
2021年度集計期間:2021年4月1日から2022年3月31日。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から臨時休館した4月25日から5月31日の37日間および年末年始は除く。



広告、広報

フジフィルム スクエアでは、下記の交通広告で施設および企画展をご案内しています。また、メディアでも数多くご紹介いただいております。当社の媒体であるフジフィルム スクエア公式Webサイトや、SNSでも多くの方々へ支持されています。

主要交通広告
日比谷線・六本木駅、日比谷線・恵比寿駅、千代田線・乃木坂駅、都営大江戸線・青山一丁目駅、東京ミッドタウン

自社媒体
・フジフィルム スクエア Webサイトユーザー数:221,281人
・Facebook、Twitter 投稿件数:406件

主要メディア掲載
新聞:朝日新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、東京新聞、徳島新聞、岩手日報/雑誌:[25ans]、「ギャラリー」、「週刊現代」「日経サイエンス」「山と溪谷」/カメラ誌(誌):「CAPA」「コマースフォト」「デジタルカメラマガジン」「日本カメラ」「風景写真」「フォトコン」/ウェブサイト:朝日新聞デジタル&M、antenna、MdN Design Interactive、グノシー、ZDNet Japan、CNET JAPAN、東洋経済オンライン、PRESIDENT Online、毎日新聞WEB、読売新聞オンライン、livedoor ニュース、LINE NEWS

Web公開コンテンツ
・Web公開動画:フジフィルム スクエアWebサイトで公開した動画本数11本、総再生回数22,572回* ※2022年3月31日現在
・Web公開インタビュー記事:4本
・Webマガジン公開コラム:4本

〈動画公開例〉
フジフィルム スクエア コンシェルジュによる写真歴史博物館のご案内
富士フィルムで写真関連製品・サービスの研究・開発・技術サポートに長年携わったOBが、コンシェルジュとして、館内の写真展や展示物についてわかりやすく解説する動画。再生回数4,817回*。*2022年3月31日現在



「厳選写真で振り返る落語家の姿と形」 読売新聞朝刊(2022年3月3日@)



「噺」写した50点 毎日新聞朝刊(2022年3月5日@)

来館者、出展者から寄せられた声

フジフィルム スクエアには来館者からアンケートで感動の声が多く寄せられます。また、出展者からも展示を通して発見したことや、来館者との交流についての感想など、たくさん声をいただきます。このように、フジフィルム スクエアで写真を通じて「こころ彩られ」、紡ぎだされた言葉の一部をご紹介します。
※お寄せいただいた声と写真の被写体の方は関係ありません。

〈来館者の声〉



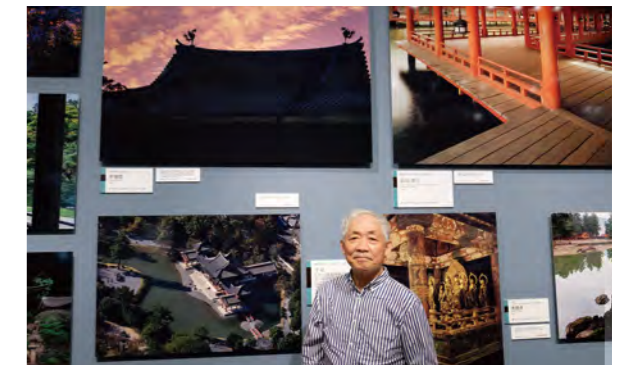
- 写真に詳しくない私でも、ここで写真を見ると気分が明るくなります。また来ます。
- 写真展を見て、自分でも写真を撮ってみたいという気分が湧いてきました。
- 写真展を見た後、動画を見て、写真家の思いも知ることができて、とても良かった。
- このような素晴らしい展示をしている富士フィルムの企業姿勢にいつも感心しています。
- 毎回、素敵な企画をしてくれてありがたい。この取り組みをぜひ、続けてください。
- 来る前に期待していた通り、富士フィルムならではの素晴らしい作品展示だった。
- いつ来ても大変賞の高い写真展だ。見に来てよかった。
- 無料でこんなに素晴らしい写真を鑑賞できることに驚きました。
- 写真の力に改めて感動した。
- しっかり感染対策がとられているので、安心して見る事ができた。
- スタッフの対応が適切でとても素晴らしい。
- コンシェルジュから丁寧に写真の歴史について教えてもらった。とてもわかりやすく、写真に興味を持つきっかけになった。
- 一度に色々な作品を見られるのが楽しい。

〈出展者の声〉

- 何度も見に来たことのあるギャラリーで、まさか自分の写真を展示できると思っていなかった。搬入日に写真展のタイトル看板を見ただけで涙が出た。
- ステートメントや作品紹介のテキスト制作が一番時間がかかったが、言語化することで、あいまいだった部分が明確になったり、自分の作品に対する理解が深まった。
- 搬入を終えて、ギャラリーに展示された作品群は圧巻だった。その時の光景を忘れることはないと思います。
- 通りがかりの方も多く立ち寄ってくださり素直なコメントをいただくことができて楽しかった。
- 多くの方がじっくりと時間をかけて鑑賞される後ろ姿を見ていて、開催して良かったと感じた。
- やっぱり写真はプリントしてこそ「本物の写真」なんだな、と実感した。
- 写真の力で僕が伝えたいことを感じてほしい、という思いが多くの方に伝わった。
- 写真展は、私だけでは開催できなかった。富士フィルム、ラボ、来館された方、皆さんに感謝しています。
- 日本で一番のギャラリーに作品を飾れたことは、わがクラブの誇りだと感じた。
- 写真が大きく引き伸ばされることで、臨場感が伝わった。作品1点1点の世界観が表現され、圧巻でした。
- 今後も研鑽を積んで、また公募展に応募できるよう頑張っていきたい。
- 来館の方に貴重な応援メッセージをいただき、今後の励みになりました。



立木義浩氏(左)と真言宗総本山 東寺 三浦文良氏(右)。
(立木義浩写真展「遍照」～世界遺産 東寺～より)



藤塚光政氏(「魅力発見! 日本の世界文化遺産」より)

施設案内



富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1+2

フジフィルム スクエア主催の企画展とプロアマ問わずご応募いただく公募展を開催。



富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3

最新の富士フィルム製品やプリントサービスを使用した写真や若手写真家企画展を展示。



富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー

企画写真展や地域と連携した展示等を開催。



写真歴史博物館

貴重なアンティークカメラや富士フィルムの歴代カメラの展示に加え、歴史的に価値のある写真を展示する企画展も定期的で開催。



タッチフジフィルム

写真をもっと楽しく! ご提案コーナー

「チェキ」や富士フィルムのミラーレスデジタルカメラ「GFX・Xシリーズ」、交換レンズなどの最新製品を展示しています。また、スマートフォンからも簡単にご注文いただけるプリントやフォトブックバリエーション、「WALL DECOR」、写真を使った「プリント&ギフト」などを展示。



ASTALIFT ROPPONGI

フジフィルム ヘルスケアショップ

「アスタリフト」をはじめ、長年の写真分野の研究開発で培った独自の技術を応用した富士フィルムのスキンケア化粧品・サプリメントを取りそろえています。
TEL.03-6271-3356 (10:00~19:00)



FUJIFILM SQUARE

フジフィルム スクエア

開館時間 10:00~19:00 (入館は18:50まで)

無休(年末年始を除く) / 入館無料

※やむを得ず臨時休館する場合がございます。ウェブサイト・電話でご確認ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 東京ミッドタウン・ウェスト 1F

TEL.03-6271-3350(10:00~18:00)

<https://fujifilmsquare.jp/>

都営大江戸線「六本木駅」8番出口と直結

東京メトロ日比谷線「六本木駅」東京ミッドタウン行き地下通路で徒歩4分

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩5分



富士フィルムフォトサロン、写真歴史博物館は、2022年、公益社団法人企業メセナ協議会より、「芸術・文化振興による社会創造活動」として「THIS IS MECENAT 2022」の認定を受けております。



- ・本活動報告書の2021年度とは2021年4月1日～2022年3月31日を指します。
- ・本活動報告書に掲載されている「主要メディア掲載」および「ご来館者数」のデータは自社調査に基づくものです。
- ・本活動報告書に掲載されている新聞・雑誌の記事は、新聞社・出版社に掲載の許諾を得ています。記事の無断複写・転載を禁じます。
- ・「来館者数」は写真展期間中のフジフィルム スクエア全体のご来館者数の合計です。
- ・「来館者の声」および「来館者属性」は、2021年度に開催された写真展期間(2021年4月1日から2022年3月31日)に実施された自社アンケート調査に基づくものです。
- ・本活動報告書では、銀を含む化学薬品をゼラチンに溶かして塗布した写真用紙に、ネガフィルムなどを通して露光し、現像処理して得られる写真プリントのことを「銀写真プリント*」と表記しています。
※フィルム・デジカメ画像を写真店やラボに依頼してプリントする、従来からの「写真(銀塩方式)」プリントを示す呼称
- ・本活動報告書に掲載されている写真は、新型コロナウイルス感染対策を十分に講じたうえで撮影しています。マスク未着用の写真は撮影時のみマスクを外しています。
- ・年間を通じた写真展運営の協力会社は、下記のとおりです。
展示作業:株式会社フレームマン
展示物・告知物制作:富士フィルムイメージングシステムズ株式会社
運営協力:富士フィルムビジネスエキスパート株式会社

フジフィルム スクエア 2021年度 活動報告書

発行日: 2022年8月

発行・編集:富士フィルム株式会社

コーポレートコミュニケーション部 宣伝部

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3

発行者:青木宇雄

デザイン:株式会社ラジアン

制作:株式会社ジョーメイ

©富士フィルム株式会社 禁無断転載

